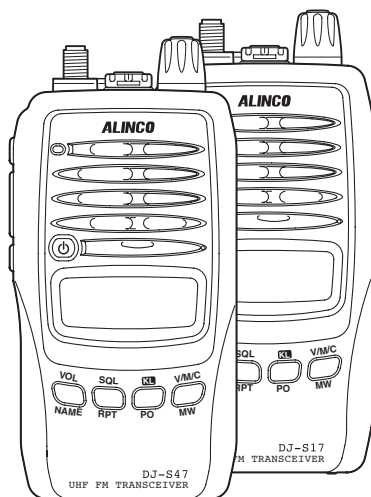
ALINCO

VHF FM TRANSCEIVER (144MHz)

DJ-S17L

UHF FM TRANSCEIVER (430MHz)

DJ-S47L

アルインコのトランシーバーをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
本機の性能を十分に発揮させるために、ご使用前にこの取扱説明書を最後までお読みください。アフターサービスなどについても記載していますので、この取扱説明書は大切に保管してください。また、補足シートや正誤表が入っている場合は、取扱説明書と合わせて保管してください。ご使用中の不明な点や不具合が生じたとき、お役に立ちます。

本機は日本国内専用モデルです。
この無線機を使用するには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。
また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。
This product is permitted for use only in japan.An amateur radio license is required.

アルインコ株式会社

◆◆◆ 安全上のご注意 ◆◆◆

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用の前にお読みください。

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損失を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表　示	表示の意味
危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

図記号	表示の意味
	△記号は、注意（危険・警告含む）を促す内容があることを告げるものです。 図の中には具体的な注意内容が描かれています。
	○記号は、行為の禁止であることを告げるものです。 図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。
	●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合はACアダプターをコンセントから抜け）が描かれています。

本製品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因にて通信等の機会を失ったために生じた損害等の純粋経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

⚠警告

■ 使用環境・条件

自動車等の運転中に使用しないでください。交通事故の原因となります。

運転者が使用するときは車を安全な場所に止めてからご使用ください。携帯型無線機を運転者が走行中に使用すると道路交通法違反で罰せられます。

電子機器（特に医療機器）の近くでは使用しないでください。電波障害により機器の故障・誤動作の原因となります。

内部から漏れた液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に傷害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、中継局周辺、病院内では絶対に使用しないでください（電源も入れないでください）。
運行の安全や無線局の運用、放送の受信に支障をきたしたり、医療機器が故障・誤動作する原因となります。

この製品を使用できるのは、日本国内のみです。外国では使用できない地域があります。保証書は国内でのご使用のみに適用されます。
This model has been designed for use only in Japan.
Warranty is void when used outside of Japan.

この製品を人命救助等の目的で使用して、万一、故障・誤動作等が原因で人命が失われることがあっても、製造元および販売元はその責任を負うものではありません。

この製品どうし、または他の無線機とともに至近距離で複数台使用しないでください。お互いの影響により故障・誤動作・不具合の原因となります。

この製品を何らかのシステムや電子機器の一部として組み込んで使用した場合、いかなる誤動作・不具合が生じても製造元および販売元はその責任を負うものではありません。

指定以外のオプションや他社のアクセサリー製品を接続しないでください。故障の原因となります。

■ トランシーバー本体の取扱いについて

イヤホンを使用する場合、あらかじめ音量を下げてください。聴力障害の原因になることがあります。

このトランシーバーは調整済みです。分解・改造して使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

布や布団で覆ったりしないでください。熱がこもり、ケースが変形したり、火災の原因となります。直射日光を避けて風通しの良い状態でご使用ください。

後述の説明以外の条件で水をかけたり、水が入ったりしないようにご注意ください。火災・感電・故障の原因となります。

水などでぬれやすい場所（風呂場など）では使用しないでください。水をかけたり、水が入ったりしないよう、またぬらさないようにご注意ください。火災・感電・故障の原因となります。

近くに小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。

■ 充電器の取扱いについて

指定以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

充電器のACプラグのコードをタコ足配線しないでください。加熱・発火の原因となります。

ぬれた手で充電器のACアダプターに触れたり、抜き差ししないでください。感電の原因となります。

充電器のACアダプターを、ACコンセントに確実に差し込んでください。ACアダプターの刃に金具などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。

充電器のACアダプターの刃に、ほこりが付着したまま使用しないでください。ショートや加熱により火災・感電・故障の原因となります。

■ 安定化電源の使用について

指定以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

安定化電源の電源プラグと他の製品の電源プラグをタコ足配線しないでください。

安全上のご注意

ぬれた手で安定化電源の電源プラグに触れたり、抜き差ししないでください。感電の原因となります。

安定化電源の電源プラグをACコンセントに確実に差し込んでください。電源プラグの刃に金属などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。

DCケーブルを加工したり、ヒューズホルダーを取り除いて使用することは、絶対にしないでください。火災・感電・故障の原因となります。

■ シガーライターケーブルの使用について

ぬれた手でシガーライターケーブルに触れないでください。感電の原因となります。

弊社指定のシガーライターケーブルをお使いください。指定以外のものを使うと火災、感電、故障の原因となります。

■ 異常時の処置について

以下の場合は、すぐ本体の電源をOFFにして、電池を取り外し、充電器をご使用の場合は、ACアダプターをACコンセントから抜いてください。異常な状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。修理はお買い上げの販売店、または当社サービス窓口にご連絡ください。お客様による修理は、危険ですから、絶対にお止めください。

■ 異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがするとき
■ 落としたり、ケースを破損したりしたとき
■ 内部に水や異物が入ったとき
■ ACアダプターのコードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）

雷が鳴り出したら、安全のため本体の電源をOFFにし、充電器をご使用の場合は、ACアダプターをACコンセントから抜いて、ご使用をお控えください。

■ 保守・点検

本体や充電器のケースは、開けないでください。けが・感電・故障の原因となります。内部の点検・修理は、お買い上げの販売店または当社サービスセンターにご依頼ください。

⚠注意

■ 使用環境・条件

テレビやラジオ、パソコンの近くで使用すると、電波障害を与えたり、受けたりすることがありますが異常ではありません。

湿度の高い場所、ほこりの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

直射日光があたる場所や車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色したり、火災の原因となることがあります。

調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

■ トランシーバー本体の取扱いについて

アンテナを誤って目にささないようにしてください。

外部スピーカー/マイクロホン端子にはオプションのスピーカー/マイクロホン以外は接続しないでください。故障の原因となることがあります。

長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず本体の電源をOFFにし、電池をとりはずし、充電器をご使用の場合はACアダプターをACコンセントから抜いてください。

イヤホンを使用する場合、あらかじめ音量を下げてください。
聴覚障害の原因となることがあります。

■ 充電器の取扱いについて

充電器のACアダプターを抜くときは、コードを引っ張らないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
必ずACアダプターを持って抜いてください。

充電器のACアダプターを熱器具に近づけないでください。
火災・感電・故障の原因となることがあります。

■ 保守・点検

お手入れの際は、安全のため必ず本体の電源をOFFにして、電池をとりはずし、充電器をご使用の場合は、ACアダプターをACコンセントから抜いてください。

汚れた場合は柔らかいきれいな布で乾拭きしてください。
ベンジン、シンナー、アルコール、洗剤などを使うと外装や文字が変質する恐れがあります。

■ 外部電源使用時の注意

本機に外部電源を接続する場合には、必ずオプションのDCケーブル（EDC-37）を使用し、本体側面にあるDC電源ジャックに直接接続してください。

車のシガーソケットから電源を取る場合には、オプションの12V車用シガープラグ（EDC-36）をご使用ください。

外部電源ケーブルの抜き差しは、必ず本体の電源をOFFにしてからおこなってください。

■ 防浸機能について

この製品は設計段階で外郭保護等級IP67規格の耐塵防浸試験に合格しており、保護カバー類を正しく閉めるなど指定の条件を満たしていれば、雨や雪、埃っぽい環境の中でもお使いいただけます。ただし、砂嵐のような風圧や流水のような水圧が掛かる環境下での性能を保証するものではありません。金属製、油性、酸や塩分、化学物質を含む等、特殊な粉塵や液体の場合は製品に使われている素材や部品に付着して腐食、劣化や故障の原因になりますが、保証の対象外ですのでご了承ください。また、出荷前に個別審査を行わない「相当品」ですので、汚れたりした時は埃を払い、乾いた布で拭くなどのメンテナンスを心がけていただくと永く正常な状態でお使いになれます。保護に使われているカバー類の素材は経年変化のために変質し、保護性能が低下します。弊社では耐塵防浸性能についても製品と同じ１年を保証期間とさせていただきます。なお。耐塵防浸等の言葉が直感的に分かりにくいことから、カタログや説明書の文中では「防塵」「防水」などの言葉で表現する場合があります。

もくじ

1. 機能と特徴

本機の機能・特徴は以下のとおりです。

- ■ **IP67相当の耐塵・防水で、雨や雪、水辺でも安心して使えます。**
- ■ **39種類のCTCSSトーンスケルチ**
- ■ **104種類のDCSデジタルコードスケルチ**
- ■ **TOT(タイムアウトタイマー)機能**
- ■ **英数字表示ディスプレイ**
- ■ **トーンコール機能(1750,2100,1000,1450Hz)**
- ■ **レピーターアクセス機能**
- ■ **クローン機能**
- ■ **発信機探索機能**

1.1 標準付属品

・EBP-63　リチウムイオン充電池パック(7.4V1100mAh)
・EDC-144A　スタンド型急速充電器＆アダプターセット
・EDH-34　乾電池ケース
・EA0165　アンテナ(DJ-S17L)
・EA0143　アンテナ(DJ-S47L)
・ベルトクリップ
・ハンドストラップ
・取扱説明書(本書)
・保証書

・付属品の種類が異なる場合があります。標準付属品の仕様・保証内容については、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

注 意

保証書に購入の日付が記載されていないときは、レシートを保証書と一緒に保管してください。ご購入日が証明できる書類がないと保証サービスは無効となりますのでご注意ください。

2. 付属品

2.1 付属品の取り付け方

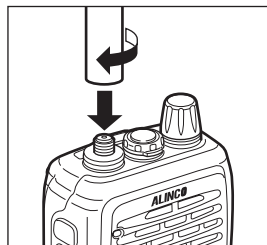
2.1.1 アンテナ

■ アンテナの取り付け方

1.アンテナの根元を持ちます。

2.アンテナ底面の溝と本体のアンテナコネクターの凸凹部を合わせて差し込みます。

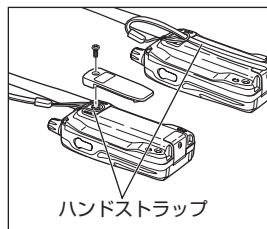
3.アンテナを時計方向(右)に回します。

4.回転が止まったら、アンテナを確実に取り付けたことを確認します。

参 考:
・DJ-S17に付属のアンテナは折れにくくするため通常のものより柔軟な素材でできています。
・市販されているアンテナ端子変換用コネクターには、この製品に適合しない形状のものがあります。変換コネクターが正しく接触しているか確認してからお使いください。

■ アンテナの取り外し方

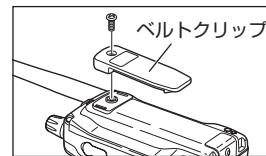
アンテナを反時計方向(左)に回します。

2.1.2 ハンドストラップ

図のように取り付けます。取り付け方には2種類あります。

2.1.3 ベルトクリップ

■ ベルトクリップの取り付け方

1.ベルトクリップを本体の背面部の溝に合わせて取り付け、ネジを時計方向(右)に回して固定します。

2.ベルトクリップを確実に取り付けたことを確認します。

・ご使用に伴い、ネジがゆるむことがありますので、ゆるんでいないことをお確かめください。

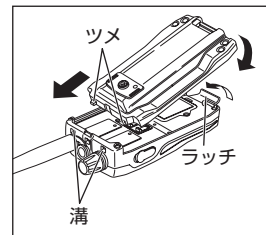
■ ベルトクリップの取り外し方

ネジを反時計方向(左)に回してベルトクリップを取り外します。

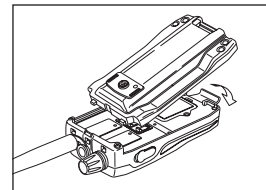
 注 意
・標準付属品以外のネジを使うとバッテリーパックやベルトクリップが破損します。絶対に規格以外のネジはお使いにならないでください。
・本機を体に固定する場合は、かがんだときなどにプラグやアンテナにストレスが掛からないようご注意ください。

2.1.4 バッテリーパック

■ バッテリーパックの取り付け方

バッテリーパックのツメを本体の溝に合わせ、バッテリーパックを矢印の方向に押し込みながらラッチを閉じます。「カチッ」と音がするまでラッチを閉じます。

■ バッテリーパックの取り外し方

バッテリーパックからラッチを矢印の方向に外し、バッテリーパックを取り外します。

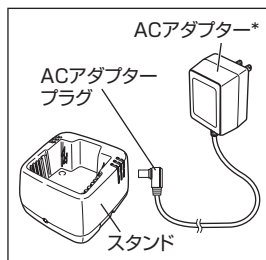
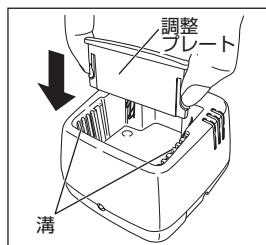
2

■バッテリーパックの充電方法

ここでは標準付属品のリチウムイオンバッテリーパック(EBP-63)の充電方法を説明します。
付属の充電スタンド(EDC-144)を使用して、放電状態から約2時間で充電できます。
本体のDCジャックからの充電はできません。
その他のバッテリーパックの充電方法については57ページをご参照ください。

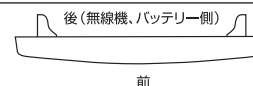
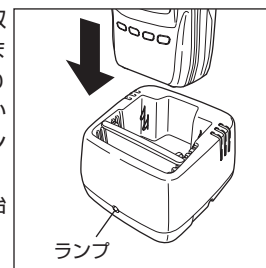
⚠ 注 意：EDC-144をご使用になる前にお読みください。
初めてお使いになる前に、ショート防止のために絶縁シートでネジ取り付け口を覆ってください。手順については、60ページを参照してください。

1.ACアダプタープラグを、スタンド背面のDC-INジャックに接続します。
*ACアダプターの形は仕様によって異なる場合があります。

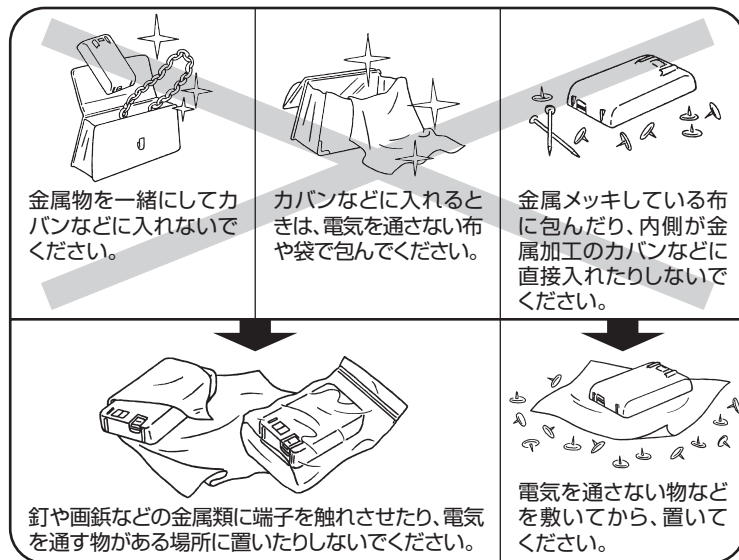
2.アダプターをコンセントに接続します。

参 考:
DCプラグを正しく接続してもDCプラグの軸（マイナス極）が見えますが、異常ではございません。

3.調整プレートの両端を指で押さえたまま、バッテリーパックの大きさに合うスタンドの溝に調整プレートを取り付けます(左右の文字(A、B、C)が一致するように調整プレートを取り付けます)。プレートはスタンドの底までしっかりと押しこみます。

参 考:
・EBP-63を本機に取り付けて充電する場合は前方両側のAの位置に、EBP-63のみを差し込んで充電する場合は後方両側のAの位置に調整プレートを合わせて取り付けてください。
・無線機にバッテリーパックを装着した状態でうまく充電できない場合は、バッテリーパック単体で充電して異常がないかご確認してください。
・充電池の電圧が高い(充電が完了している場合)は充電台のランプは点灯しません。
・リチウムイオンバッテリーを保存するには50%程度の充電状態が最適と言われています。最も劣化しやすいのは放電状態、次に満充電状態での保存です。

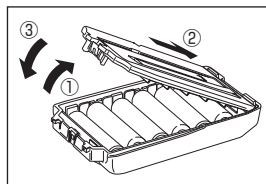
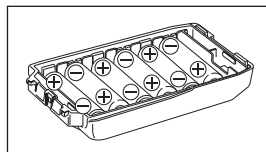
2

4.図のようにスタンドにバッテリーパックを取り付けます。充電中は無線機の電源を切ります。（図は、バッテリーパックを本体に取り付けたまま充電する場合のものです。本体から取り外してバッテリーパックのみをスタンドに入れることもできます。）
スタンドのランプが赤色に点灯し、充電が始まります。

⚠ 注 意
・バッテリーパックは出荷時には満充電されておりません。お買い上げ後に充電してからご使用ください。
・充電は0℃～40℃の温度範囲内でおこなってください。
・バッテリーパックの改造、分解、火中・水中への投入は危険ですからしないでください。
・バッテリーパックの端子は絶対にショートさせないでください。機器の損傷や、バッテリーの発熱による火傷の原因となることがあります。
・必要以上の長時間の充電(過充電)はバッテリーの性能を低下させますので避けてください。
・バッテリーパックの保存は、－10℃～45℃の範囲で湿度が低く乾燥した場所を選んでください。それ以外の温度や極端に湿度の高い所では、バッテリーの漏液や、金属部分のサビの原因になりますので避けてください。
・バッテリーパックは消耗品です。所定の時間充電しても使用時間が著しく短い場合は寿命がつきたものと思われます。新しいものにお取替えください。
・バッテリーパックはリサイクル資源です。再利用しますので、廃棄しないでバッテリーパック回収協力店へご持参ください。
・リチウムイオンバッテリーパックは、本体にDCジャックを使用して充電することはできません。(DCジャックで充電できるのは、ニッケル水素バッテリーパックのみです。)
・バッテリーパックは弊社製品専用です。対応の純正充電器または適合する無線機のみで充電できます。市販や他社製品の充電器やアダプターなどから充電すると、故障や事故の原因となることがあります。
・本体・バッテリーパックまたは充電器の電極の汚れを、ときどき乾いた綿棒などで取り除いてください。
・長時間使わないときは、バッテリーパックが空に近い時だけ一時間程度継ぎ足し充電をしてから本体から外して保存してください。

2.1.5　バッテリーパックのショート防止

バッテリーパックを持ち運ぶときは、十分ご注意ください。ショートによって電流が急増し、発火の原因となることがあります。

2.1.6　乾電池ケース

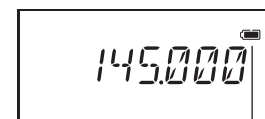
単三電池用のケースとして、EDH-34を使用できます。

1.ツメを持ち上げ(①)、カバーを取り外します。

2.単三電池6本をケースにセットし、②→③の順にカバーを閉じます。確実に閉じていることを確認します。乾電池は性能上優れているアルカリ等の高性能タイプをお使いください。

⚠ 注 意

- 乾電池を使用するときは、バッテリタイプの設定を必ずBAT-ALに変更してください。(☞49ページ)
- 乾電池を交換するときは、すべての乾電池を新しいものに換えてください。
- この乾電池ケースは防水ではありません。
- ＋/－の向きが違わないように注意してください。漏電・発火・爆発の原因となることがあります。
- セットする乾電池は、タイプ・メーカーが同じで、新しいものを使用してください。
- 充電式電池の使用は禁止されています。充電式電池の使用の結果生じた、身体・財産へのいかなる損害・傷害についてもメーカーは一切の責任を負いません。
- 時折、乾電池と接する電極の汚れなどを清潔な乾いた布で取り除いてください。
- 間違ったタイプの電池と交換すると、爆発の原因となることがあります。
- 安全のため乾電池ケースを使用中は、DCジャックへ電源を供給しないでください。
- 電源を切っていても、待機電流により電池は自己放電分以上に消費されます。
- 長期間使用しないときは、電池を取り出してください。
- 電池の液漏れによる故障は保証の対象外となる場合があります。

2.1.7　バッテリーレベルアイコン

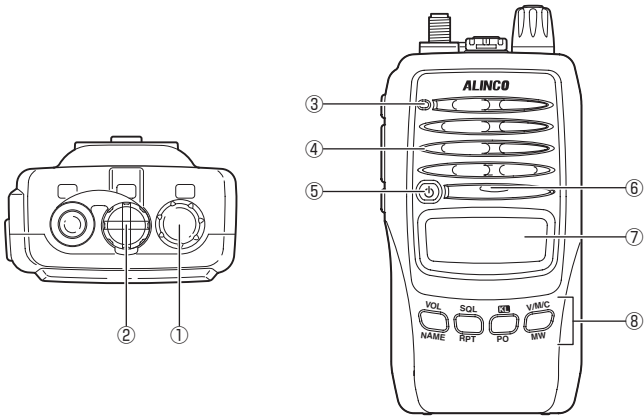
本機の使用中ディスプレイに表示される黒色のバッテリーアイコンは、バッテリーの残量が十分にあることを示します。バッテリーアイコンの中身が空になっているときは、バッテリーパックを充電するか、新しいバッテリーパックと交換してください。

145.000

バッテリーレベルアイコン

- ▬ バッテリーの残量が十分にある。
- ▭ バッテリーの残量が少ない。バッテリーパックを交換、または充電してください。

3.各部の名称と動作

3.1 本体の名称と動作

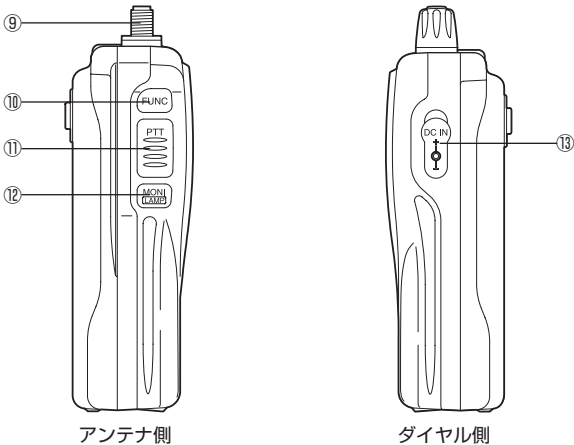
■上面部、前面部

①	ダイヤル	ダイヤルを回して送信／受信周波数、メモリーチャンネル、オフセット周波数、トーン周波数、DCSコード、セットモード内容、メモリー名入力文字を選択します。FUNCキーを押した後、ダイヤルを回すと1MHzずつ周波数を増減できます。
②	外部MIC / SP端子	当社オプションの外部マイク／スピーカーを接続します。使用しない場合は、防水のためカバーをしっかりと閉めておきます。
③	TX / RXランプ	スケルチが開くと緑色に点灯します。送信中は赤色に点灯します。
④	スピーカー	スピーカーが内蔵されています。
⑤	電源スイッチ	電源スイッチを約1秒間押すと電源のON/OFFができます。
⑥	マイク	マイクからは約5cm離れて話してください。
⑦	ディスプレイ (LCD)	本マニュアルの「3.3 ディスプレイの表示」を参照ください。(☞21ページ)
⑧	キーパッド	本マニュアルの「3.2 キー操作」を参照ください。(☞20ページ)

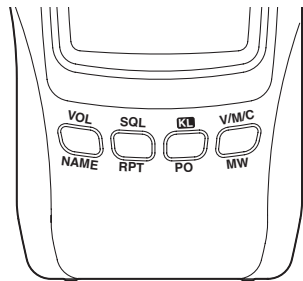
⚠注 意

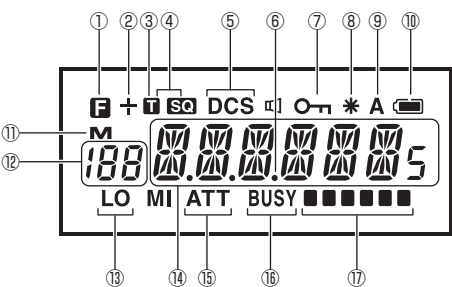
外部MIC/SP端子やDC電源ジャックに純正オプション以外のプラグを挿入すると壊れる可能性があります。また、故障の原因となりやすいデリケートな部品ですから、必要以上のストレスをジャック内部に掛けないでください。

■側面部

アンテナ側

ダイヤル側

⑨	SMAアンテナコネクター	付属のアンテナをしっかりとねじ込みます。別売のアンテナを使用する場合は、動作周波数範囲内に調整されたアンテナをお選びください。
⑩	FUNCキー	FUNCキーと他のキーを組み合わせることで様々な機能を使用できます。FUNCキーを約2秒間押すとセットモードに入り様々な設定をおこなうことができます。
⑪	PTTキー	PTTキーを押すと送信します。PTTキーを離すと受信に切り替わります。
⑫	MONIキー	MONIキーを押すとスケルチが開き受信音が聞こえます。TSQ/DCSが設定されていてもスケルチは開きます。FUNC点灯中にMONIキーを押すとランプ照明が約5秒間点灯します。PTTキーを押しながらMONIキーを押すとトーンコール信号を送信します。
⑬	DC電源ジャック	外部電源接続端子です。フィルター付き12V車用シガープラグEDC-36を接続し車中で使用できます。なお外部電源を使用する場合はDC7.0～DC16.0V 2A以上の安定化電源を使用してください。 別売りのニッケル水素バッテリーパックEBP-65/66の充電にはこの端子を使用します。

3.2 キー操作

キー		FUNCキーを押した後、F点灯中
VOL / NAME	音量調整(☞22ページ)	チャンネルネームの設定(☞34ページ)
SQL / RPT	スケルチレベル調整(☞23ページ) 長く押して(約2秒以上)スキャン開始(☞32ページ)	レピーターアクセス設定(☞42ページ)
KL / PO	長く押して(約2秒以上)キーロック設定(☞34ページ)	送信出力Hi/Low切り替え(☞31ページ)
V/M/C / MW	VFOモード／メモリーモード／コールチャンネルモードの切り替え(☞23ページ)	メモリー書き込み(☞26ページ)

3.3 ディスプレイの表示

①	F	FUNCキーを押すと点灯します。
②	÷	シフト方向を表示します。
③	T	トーンエンコーダー設定時に点灯します。
④	T SQ	トーンスケルチ設定時に点灯します。
⑤	DCS	DCS設定時に点灯します。
⑥	●	周波数やスキャン動作を表示します。
⑦	O┳	周波数及びキーロック設定時に点灯します。
⑧	＊	レピーターアクセス機能がONの時に点灯します。
⑨	A	オートパワーオフ機能がONの時に点灯します。
⑩	▬ /▭	バッテリー残量を表示します。バッテリー充電機能がONの時は、黒色のバッテリーアイコンが点滅します。
⑪	M	メモリーモード時に点灯します。
⑫	188	メモリーチャンネルNo.を表示します。
⑬	LO	送信出力がLOW時に点灯します。
⑭	8.8.8.8.8.8.5	送信･受信周波数や各設定内容等を表示します。
⑮	ATT	アッテネーター設定時に点灯します。
⑯	BUSY	スケルチが開くと点灯します。
⑰	■■■■■■	受信レベルと送信出力レベルを表示します。

※説明のないアイコンは本機では使用していません。

4. 基本操作

4.1 電源を入れる

⏻ キーを約1秒押すと電源が入ります。
もう一度⏻キーを約1秒押すと電源が切れます。

<DJ-S17>

<DJ-S47>

4.2 音量を調整する

音量調整は、(00)～(20)までの21段階です。
初期状態は00(最小)です。00の場合、音声は聞こえません。

1. VOL/NAMEキーを押します。音量レベルが表示されます。

2.ダイヤルを回して音量レベルを増加または減少させます。設定値を大きくすると音量も大きくなります。

3.MONIキー以外のキーを押し設定を終了します。ダイヤルの無操作状態が約5秒続いても自動的に設定を終了し通常表示に戻ります。

> ⚠ **注 意**
> イヤホンを使用するときは、音量にご注意ください。小さい音量レベルで実際に音量を確かめながら、大きくしてください。

4.3 スケルチを調整する

スケルチとは、受信信号のないときに出る「ザー」というノイズ音をカットする機能です。
「スケルチが開く」とは、信号を受信して受信音を出すことができる状態を示します。
・スケルチレベルは、(00)～(10)までの11段階です。
・初期状態は00(最小)です。

1. SQL/RPTキーを押します。スケルチレベルが表示されます。

2.ダイヤルを回してスケルチレベルを増加または減少させます。通常はノイズが消える最小のレベルに設定します。周波数や電波環境により調整が必要になります。

3.MONIキー以外のキーを押し設定を終了します。ダイヤルの無操作状態が約5秒続いても自動的に設定を終了し通常表示に戻ります。

4.4 VFOモード

初期状態で最初に電源を入れたときに表示されるモードです。周波数や各種機能の設定を変更することができる基本の運用モードです。

4.4.1 周波数の設定

■ VFOモードへの切り替え

V/M/C/MWキーを押すごとに、「VFOモード」、「メモリーモード」、「コールチャンネルモード」に切り替わります。メモリーモード時はディスプレイに**M**、コールチャンネルモード時はディスプレイにCと表示されます。

■ チャンネルステップでのUP/DOWN

ダイヤルを時計方向に回すと、1クリックで1チャンネルステップずつ周波数が増加します。
ダイヤルを反時計方向に回すと、1クリックで1チャンネルステップずつ周波数が減少します。
0.5MHzごとにビープ音がなります。

■ 1MHz UP/DOWN

FUNCキーを押してF点灯中にダイヤルを回すと、回す方向に応じて周波数が1MHzずつ増加または減少します。

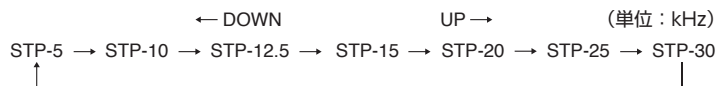
4.4.2　チャンネルステップ設定

1.セットモードのメニュー9番を選択し、現在のチャンネルステップ(初期設定は「STP-20」)を表示します。

(セットモードのメニュー一覧は「8.1セットモード一覧」(☞44ページ)を、セットモードの設定方法は「8.2セットモードの設定方法」(☞45ページ)を参照ください。)

2.ダイヤルを回すとチャンネルステップが下記のように切り替わります。

←DOWN　UP→　(単位：kHz)

STP-5 → STP-10 → STP-12.5 → STP-15 → STP-20 → STP-25 → STP-30

3.設定したいチャンネルステップを表示させた後、MONIキー及びFUNCキー以外のキーを押して設定を終了します。

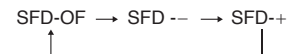
参考:
- ・メモリーモードでのステップチャンネル設定はできません。
- ・ステップ値を（5kHz、10kHz、15kHz、20kHz、30kHz）から（12.5kHz、25kHz）のいずれかに変更したり、その逆に変更すると、変更完了時の周波数とシフト幅が補正されることがありますので、145.000や433.000など、小数点以下が000になる周波数でステップ値の変更を行うことをおすすめします。

4.4.3　シフト方向とオフセット周波数の設定

通常、レピーターは、ある周波数で受信した信号を別の周波数で再送信します。
この二つの周波数の差がオフセット周波数です。オフセット周波数の設定範囲は0〜99.995MHzまでです。
PTTを押した時、送信周波数を受信周波数に対して上か下かにずらすことをシフト、その方向をシフト方向と呼びます。
シフト方向及びオフセット周波数はセットモードで設定できます。
セットモードのメニュー一覧は「8.1セットモード一覧」(☞44ページ)を、セットモードの設定方法は「8.2 セットモードの設定方法」(☞45ページ)を参照ください。なお、実際のレピーター運用には、レピーターアクセス機能用メモリー(☞28ページ)をお使いください。

■ シフト方向の設定

1.セットモードのメニュー10番を選択し、現在のシフト方向(初期設定は「SFD-OF」)を表示します。

2.ダイヤルを回すとシフト方向が下記のように切り替わります。

3.設定したいシフト方向を表示させた後、MONIキー及びFUNCキー以外のキーを押して設定を終了します。

注 意
シフトを解除する時は、SFD-OFに設定してください。

■ オフセット周波数の設定

1.セットモードのメニュー11番を選択し、現在のオフセット周波数(初期設定は「0.600」または「5.000」)を表示します。

2.ダイヤルを回すとオフセット周波数が1チャンネルステップずつ増減されます。
VOL/NAMEキーを押しながらダイヤルを回すと1MHzステップで増減できます。

3.設定したい周波数を表示させた後、MONIキー及びFUNCキー以外のキーを押して設定を終了します。

参考:
- ・通常のレピーターはアクセスするのに必須なCTCSS/DCSの設定については、「6.選択交信機能」を参照してください。（☞37ページ）
- ・日本のアマチュアレピーターは、430MHz帯ではマイナスシフトの5.000MHzです。
- ・オフセット周波数が本機の送信周波数範囲を越える数値に設定さてると、PTTキーを押した時にOFFが表示されアラームが鳴ります。この状態では送信することはできません。

4.5 メモリーモード

あらかじめ登録しておいた周波数や設定を呼び出して運用するモードです。本機は、メモリーチャンネル200個（0〜199CH）、発信機探索機能用メモリーチャンネル10個(d0〜d9)、コールチャンネル1個、レピーターアクセス機能用メモリー1個を持っています。

4.5.1　メモリーチャンネルの登録

1. V/M/C MW キーを押してVFOモードに切り替え、登録したい周波数を選択し、必要に応じて各機能を設定します。
登録できる内容については、「4.5.7メモリー登録できる内容」(☞29ページ)を参照ください。

2. V/M/C MW キーを押してメモリーモードを選択します。メモリーモード中はディスプレイにと M メモリーチャンネルNo.または C 、rP ALLFRQ が表示されます。

3. FUNCキーを押します。F が表示されます。

4. F 点灯中にダイヤルを回して希望するメモリーチャンネルNo.(0〜199)を選択します。
使用されていないメモリーチャンネルでは M が点滅します。

5. F の点灯が消えるまでに再度 V/M/C MW キーを押すと、完了ビープ音が鳴り、VFO周波数が選択されたメモリーチャンネルに登録されます。F が消えた時は、FUNCキーを押してから V/M/C MW キーを押してください。

4.5.2　メモリーチャンネルの呼出

1. V/M/C MW キーを押してメモリーモードを選択します。
2. ダイヤルを回してメモリーチャンネルを選択します。

4.5.3　メモリーチャンネルの消去

1. V/M/C MW キーを押してメモリーモードを選択します。
2. ダイヤルを回して消去したいメモリーチャンネルNo.を選択します。
3. FUNCキーを押して F 点灯中に V/M/C MW キーを押します。
ビープ音が鳴り、登録された内容が消去されます。この時、M が点滅に変わります。F が消えた時は、FUNCキーを押してから V/M/C MW キーを押してください。

> 参考:
> 手順3でディスプレイの M が点滅している状態のとき（ディスプレイにメモリーの内容がそのまま表示されているとき）、FUNCキーを押して F 点灯中に V/M/C MW キーを押すと、消去したメモリー内容復帰させることができます。ただし、メモリーチャンネルやモードを変更すると復帰不可能になります。

4.5.4　発信機探索機能用メモリーチャンネルの登録

1. V/M/C MW キーを押してVFOモードに切り替え、登録したい周波数を選択します。
2. V/M/C MW キーを押してメモリーモードを選択します。
3. FUNCキーを押して F 点灯中にダイヤルを回して希望する発信機探索機能用メモリーチャンネルNo.(d0〜d9)を選択します。
使用されていないメモリーチャンネルでは M が点滅します。
この時、プップップッという連続音が鳴りますが、異常ではありません。
4. F の点灯が消えるまでに再度 V/M/C MW キーを押すと、完了ビープ音が鳴り、VFO周波数が選択されたメモリーチャンネルに登録されます。F が消えた時は、FUNCキーを押してから V/M/C MW キーを押してください。

> 参考:
> 発信機探索機能については、「7.4発信器探索機能」（☞42ページ）を参照ください。

4.5.5　コールチャンネルの登録

1. V/M/C MW キーを押してメモリーモードを選択します。
M が表示されます。
2. ダイヤルを回して C を表示させます。
3. V/M/C MW キーを2回押してVFOモードに切り替え、ダイヤルを回して登録したい周波数やその他の機能を設定します。
4. FUNCキーを押して F 点灯中に V/M/C MW キーを押すと、完了ビープ音が鳴り、VFO周波数がコールチャンネルに登録されます。F が消えた時は、FUNCキーを押してから V/M/C MW キーを押してください。

4.5.6 レピーターアクセス機能用メモリーの登録

レピーターアクセス機能を使うと、2個のキー操作で、任意のシフト・トーン設定を運用周波数に適用することができます。この設定はセットモードとは別に行え、VFO／メモリー／コールチャンネルのいずれのモードでも使うことができます。セットモードでシフトやオフセットを設定すると常にその状態が保持されるので、シンプレックス(中継をしない通信)とセミデュープレクス(中継通信)を切り替えてQSO(交信)することが多いアマチュア無線では、この機能を使うことをおすすめします。
レピーターアクセス機能はDJ-S47で使用することをおすすめします。ただし、144MHzレピーターがポピュラーな海外での運用に対応するため(国内では中継に144MHzは使用されていません)、DJ-S17でも設定できるようになっています。

1. V/M/C MW キーを押してメモリーモードを選択します。
2. ダイヤルを回してrP ALL FRQを選択します。
3. DJ-S47では初期値としてマイナス5MHZシフト、88.5HzのCTCSSトーン(エンコードのみ)が設定されているので自動的にマイナス(－)と T のアイコンが表示されます。通常は、このままFUNCキーを押し F 点灯中に V/M/C MW キーを押して設定を終了します。
4. 海外での運用などでシフト幅やシフト方向、トーン等を変更する必要がある場合、手順2の状態でセットモードに入り、「4.4.3シフト方向とオフセット周波数の設定」(☞24～25ページ)を参照しレピーターアクセス機能向けのパラメーターを新たに編集してください。編集が終わると自動的に rP ALL FRQ の表示画面に戻ります。その後、FUNCキーを押し F 点灯中に V/M/C MW キーを押して設定を終了します。
5. レピーターアクセス機能の使い方については、「7.3レピーターアクセス機能」(☞42ページ)を参照ください。

参考:
- メモリーモードで運用中もrP ALL FRQのチャンネルが表示されますが、その周波数では交信はできません。
- スキャン中はこのチャンネルはスキップされます。この表示を消すことはできません。
- DJ-S17の初期設定値は－0.6MHz、88.5Hzトーンエンコードです。
- 国内仕様の無線機は、海外では周波数割当や電圧の違い、ライセンスの問題などでお使いになれない地域があります。また、海外でお使いの場合、国内の保証は適用されません。

4.5.7 メモリー登録できる内容

各メモリーチャンネルには、下記の内容をメモリー登録することができます。

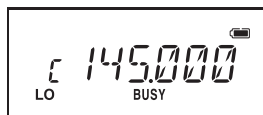
- 周波数
- オフセット周波数*
- シフト方向（＋／－)*
- トーンエンコーダー周波数*
- トーンデコーダー周波数*
- トーンエンコーダー／デコーダー設定（TSQ)*
- DCSコード*
- DCS設定*
- スキップチャンネル設定
- ビジーチャンネルロックアウト（BCLO）
- 送信パワー（H／L）
- バッテリーセーブ設定
- クロックシフト設定
- チャンネルネーム設定
- アッテネーターレベル

参考:
レピーターアクセス機能用メモリーには、*の付いた項目のみ登録可能です。

4.6 コールチャンネルモード

このモードでは、1個のキー操作で頻繁に使うメモリーチャンネルを呼び出すことができます。

1. V/M/C MW キーを押して C を表示します。
   コールチャンネルが呼び出されます。

2. もう一度 V/M/C MW キーを押すと元のモード(VFO／メモリー)に戻ります。

> **参考:**
> コールチャンネルの登録については、「4.5.5　コールチャンネルの登録」(☞27ページ)を参照ください。

重 要:
- コールチャンネルモードでは、周波数やメモリーチャンネル番号をダイヤルで変更することはできません。
- オフセット設定、トーン設定は一時的に変更して運用することができます。
- コールチャンネルモード中は、スキャン機能が使用できません。
- コールチャンネルの周波数は変更できますが、消去することはできません。

4.7 受信するには

1. 運用するモードで周波数を選択します。希望周波数で信号が受信されると、ディスプレイに BUSY と受信レベルが表示され、受信音声が聞こえます。またこの時、緑色のRXランプが点灯します。

4.7.1 モニター機能

受信信号が弱かったり、途切れたりして聞きづらい時にスケルチを一時的にOFFにする機能です。
- MONIキーを押している間だけ、スケルチレベルの設定状態に関係なくスケルチ動作が解除され、音が聞こえます。
- トーンスケルチやDCS機能が設定されていても、この機能を使うとスケルチをOFFにすることができます。

4.8 送信するには

1. 運用するモードで周波数を選択します。

2. PTTキーを押すと、赤色のTXランプが点灯し送信状態となります。PTTキーを押しながら、マイクに向かって話します。マイクと口元は約5cm程離してください。

3. PTTキーを離すと送信が終了します。

重 要:
- PTTキーを押しながらMONIキーを押すと、トーン信号が送信されます。
- マイクに向かって話すとき、声が大きすぎたり口元が近すぎたりすると、送信音が歪み(ひずみ)ますのでご注意ください。
- 本機は防水を施すため、内蔵マイクの手前に特殊な布製素材を装着しています。このため、内蔵マイクを使用した時と外部マイク等のアクセサリーを使用した時で若干音質が変わって聞こえる場合がありますが、異常ではありません。
- 送信周波数範囲外でPTTキーを押すと、ディスプレイにOFFが表示されアラーム音が鳴ります。この状態では送信することはできません。
- 水濡れや結露などで内蔵マイクの布製素材が湿っている場合に、変調が小さくなる事があります。
- マイク穴をステッカーやラベルでふさがないでください。声を拾わなくなります。
- しばらくモニターして他の通信に混信を与えないことを確認してから運用してください。

4.8.1 送信出力の切り替え

送信出力を変えることができます。
待受け又は受信中にFUNCキーを押して F 点灯中に KL PO を押すと送信出力が切り替わります。
LOWパワー時にはディスプレイに LO が点灯します。
HIパワー時には何も表示しません。
初期値はLOWパワーとなっています。
送信出力メーターはLOWパワー送信時 ■■■、HIパワー送信時 ■■■■■■です。

重 要:
送信中は、HI/LOW送信出力の切り替えはできません。

5.便利な機能

5.1 スキャン機能

自動的に受信周波数を切り替えて、受信信号を探し出す機能です。スキャンの種類はビジースキャンとタイマースキャンがあります。初期状態はタイマースキャンです。

・タイマースキャン：スキャン停止後、受信信号があっても5秒経過すると次のチャンネルに移ります。

・ビジースキャン：スキャン停止後、受信信号が無くなれば次のチャンネルに移ります。

スキャン中は表示部の1MHzデシマルポイント(•)が点滅します。
スキャンの解除は、MONIキー以外のキーを押します。
再度スキャンするときのスキャン方向は、最後に操作した方向になります。

参考:
ビジースキャンとタイマースキャンの切り替えはセットモードで行います (☞45ページ)。

5.1.1 VFOスキャン

1. V/M/C MW キーを押してVFOモードを選択します。
2. SQL RPT キーを2秒以上押します。
   スケルチ設定画面が表示されますがそのまま押し続けます。
   スキャンが開始され、最後に操作した方向へ、チャンネルステップ単位でスキャンします。
3. ダイヤルを時計方向に回すとアップ方向にスキャンし、反時計方向に回すとダウン方向にスキャンします。
   VFOスキャンは、全受信周波数範囲をスキャンします。
4. スキャンを止めるにはMONIキー以外のキーを押します。

5.1.2 メモリースキャン

1. V/M/C MW キーを押してメモリーモードにします。
2. SQL RPT キーを2秒以上押します。
   スケルチ設定画面が表示されますがそのまま押し続けます。
   メモリースキャンが開始されます。
3. ダイヤルを時計方向に回すとアップ方向にスキャンし、反時計方向に回すとダウン方向にスキャンします。
   メモリースキャンはメモリーされているチャンネルのみスキャンします。
4. スキャンを止めるにはMONIキー以外のキーを押します。

参 考:
・メモリースキャンでは、通常のメモリーチャンネルと発信機探索機能用チャンネルのそれぞれを独立してスキャンできます。通常のメモリースキャンにはメモリーモードでM0～M199の、発信機探索機能用メモリーのスキャンにはd0～d9のうちいずれか1つのチャンネルを選択してからスキャン操作をしてください。
・スキャンを開始する前にスケルチレベルを正しく設定してください。トーンスケルチを設定していても、スキャンを開始するには通常のスケルチレベル調整が必要になります。

5.1.3 スキップチャンネル設定

スキップチャンネルに設定されたメモリーチャンネル及び発信機探索機能用メモリーチャンネルは、メモリースキャン時にスキャンの対象から外されます。

1. メモリーモードでスキップチャンネルに設定したいメモリーチャンネルを選択します。
2. FUNCキーを2秒以上押してセットモード(☞44ページ)に入りメニュー16番を選択し、現在のチャンネルスキップ設定(初期設定は「SKP-OF」)を表示します。
3. ダイヤルを回すと表示のON/OFFが切り替わります。
   FUNCキー及びMONIキー以外のキーを押して設定を終了します。
4. 設定をONにすると、設定されたメモリーチャンネルには10MHzデシマルポイントが点灯します。

参 考:
・コールチャンネルとレピーターアクセス機能用メモリーは自動的にスキップされます。
・メモリーモード以外ではスキップチャンネル設定はセットモードメニューに表示されません。

5.2 キーロック機能

キーロックの設定は、下記の2種類の方法があります。

① KL/PO キーを2秒以上押すとキーロックが設定されます。

②MONIキーを押しながらKL/POキーを3回押すとキーロックが設定されます。

・①の方法でキーロックを設定した場合は、①の方法でのみ解除できます。
・②の方法でキーロックを設定した場合は、②の方法でのみ解除できます。
・キーロック時は、ディスプレイに O━ が点灯します。
・キーロック時は、PTT、LAMP、MONI、VOL、SQL、トーンコール、電源ON/OFFの操作のみが可能です。
・キーロック機能は、レピーターアクセス機能用メモリーを表示中に設定することはできません。

5.3 トーンコール機能

送信時にトーン信号を送ったり、通信相手の呼び出し等にご利用ください。
・PTTキーを押しながらMONIキーを押している間、トーン信号が送信されます。
・トーン周波数は初期値1750Hzで、セットモードで変更可能です。(☞46ページ)
・トーン信号送信中は、CTCSS/DCSトーンは一時的に中断されます。
・トーン送信中でもスピーカーから音は聞こえません。

参 考:
ヨーロッパで多用されているトーンバースト式アマチュア・レピーターへのアクセスに利用できます。

5.4 チャンネルネーム機能

メモリーモードで周波数表示の代わりに任意の英数字(6文字まで)を表示することができます。

5.4.1 設定方法

1.メモリーモードでチャンネルネームを設定したいチャンネルを選択します。
2.FUNCキーを押して F 点灯中にキー VOL/NAME を押します。
3.ディスプレイに [A]が点滅表示します。

4.ダイヤルを回して入力文字を選択します。

5. VOL/NAME キーを押すと入力した文字は点灯に代わり、次の文字が入力できます。

6.同様の手順で以降の文字を入力していきます。
・入力中に SQL/RPT キーを押すと入力文字が全消去されます。

7.MONIキー、SQL/RPT キー、VOL/NAME キー以外のキーを押すと設定が終了します。

参 考:
点灯状態の文字のみがメモリーされます。たとえば、3文字だけ入力したい場合は4文字目が点滅状態の時に、6文字入力したい場合は初めに戻って1文字目が点滅状態の時に設定します。

5.4.2 チャンネルネーム機能の運用

・メモリーモードにすると、チャンネルネーム設定されているチャンネルは、周波数表示の部分が設定した英数字で表示されます(CH番号はそのまま表示されます)。
・FUNCキーを押すと、表示が5秒間周波数表示に変わります(途中何かのキーを押すと、チャンネルネーム表示に戻ります)が、ファンクション機能に割り当てられたキーを押すと、その機能やモードが動作します。
・コールチャンネルにこの機能を使う場合は、コールチャンネルモードで設定します。

5.5 オートパワーオフ（APO）機能

電源スイッチの切り忘れによる電池の消耗を防ぐ機能です。

5.5.1 APOの設定

1.セットモード(☞44ページ)のメニュー15番を選択し、現在のオートパワーオフ設定(初期設定は「APO-OF」)を表示します。
2.ダイヤルを回すと表示のON/OFFが切り替わります。
3.設定をONにすると、ディスプレイに **A** が表示されます。

5.5.2 APOの動作

APOをONにすると、無操作の状態が約30分間続くとビープ音が鳴り、自動的に無線機の電源が切れます。APOの時間のカウントは信号が入感しても延長されません。キー操作のみで延長されます。スキャン中も同様です。

5.6 タイムアウトタイマー（TOT）

送信が連続して一定の時間以上続いたとき、自動的に送信を停止させる機能です。

5.6.1 TOTの設定

1.セットモード(☞44ページ)のメニュー7番を選択し、現在のTOT設定(初期設定は「T-OFF」)を表示させせます。

2.ダイヤルを回してTOT時間を変更します。TOT時間は最長450秒まで設定できます。

3.MONIキー及びFUNCキー以外のキーを押して設定を終了します。

5

5.6.2 TOTの動作

連続送信時間が設定された時間を超過する直前にビープ音が鳴り、無線機は自動的に受信状態になります。この場合、一度PTTキーをOFFにしないと次の送信はできません。
(TOTペナルティ時間が設定されている場合には、設定された時間内に再度PTTキーをONにしても送信できません。TOTペナルティ時間の設定については、47ページを参照ください。)

5.7 ランプ機能

FUNCキーを押して F 点灯中にMONIキーを押すと、LCDとキーパッドの照明が点灯します。
・無操作状態が5秒間継続すると、ランプは自動的に消灯します。
・点灯中にLAMPキー以外の操作があれば、そこから5秒間点灯が延長されます。
・MONIキーを押しながら電源を入れると、ランプが常時点灯状態となります。
・常時点灯状態でもFUNCキーを押してMONIキーを押すと、ランプをON/OFFにすることができます。

> **参 考:**
> ランプ機能を使うとバッテリーの消費が早くなります。常時点灯状態設定は、外部電源を使用している場合に限ることをおすすめします。

6. 選択交信機能

■ 選択呼出の方法

・特定の局と交信する場合には、トーンスケルチ(CTCSS)機能またはDCS機能を使用します。
・トーンスケルチ機能は、39種類のCTCSSトーンから自局で設定したトーン周波数が、相手局のトーン周波数を受信したときに一致していればスケルチが開く機能です。
・DCS機能は、104種類のデジタルコードから自局で設定したコードが、相手局のデジタルコードを受信したときに一致していればスケルチが開く機能です。
・トーンスケルチ機能とDCS機能を同時に併用することはできません。

6.1 トーンスケルチ機能

6.1.1 トーンスケルチの設定

1.セットモード(☞44ページ)のメニュー12番を選択し、現在のトーンスケルチ設定(初期設定は「TN-OFF」)を表示します。

2.ダイヤルを回すとディスプレイ表示が下記のように切り替わります。

T　T/SQ
TN-OFF → TN-ENC → TN-TSQ

・T ：エンコーダー周波数のみの設定となります。
・T SQ ：エンコーダー／デコーダー周波数(トーンスケルチ)の設定となります。

3.MONIキー及びFUNCキー以外のキーを押して設定を終了します。

6.1.2 トーン周波数の設定

1.セットモード(☞44ページ)のメニュー13番を選択し、現在のトーン周波数(初期設定は「88.5」)を表示します。

6

2.ダイヤルを回して、使用するトーン周波数を下記の39個の標準CTCSSトーンから選択します。

(単位: Hz)

67.0	69.3	71.9	74.4	77.0	79.7	82.5	85.4	88.5	91.5
94.8	97.4	100.0	103.5	107.2	110.9	114.8	118.8	123.0	127.3
131.8	136.5	141.3	146.2	151.4	156.7	162.2	167.9	173.8	179.9
186.2	192.8	203.5	210.7	218.1	225.7	233.6	241.8	250.3	

3.MONIキー及びFUNCキー以外のキーを押して設定を終了します。

参 考:
通常は、エンコーダー周波数を変更するとデコーダー周波数も自動的に同じ値に変更されます。また、デコーダー周波数を変更するとエンコーダー周波数も自動的に同じ値に変更されます。別々の値を設定したい場合は、下記の「6.1.4 EDC/DEC周波数の個別設定」を参照してください。

6

6.1.3 トーンスケルチの解除

トーンスケルチを解除するには、セットモード(☞44ページ)のメニュー12番で「TN-OFF」を選択し、MONIキー及びFUNCキー以外のキーを押します。

6.1.4 ENC/DEC周波数の個別設定

通常は、エンコーダー周波数を変更するとデコーダー周波数も自動的に同じ値に変更されます。また、デコーダー周波数を変更するとエンコーダー周波数も自動的に同じ値に変更されます。別々の値を設定する場合は、下記の操作を行います。

1.キーロック状態に入ります。(「5.2キーロック機能」(☞34ページ))

2.FUNCキーを押して F 点灯中に VOL/NAME キーを3回、V/M/C/MW キーを3回押します。
ディスプレイに「TSQ-EQ」(初期設定)と表示されます。

3.ダイヤルを回して「TSQ-NE」を選択します。

4.MONIキー以外のキーを押して設定を終了します。
- 「TSQ-EQ」を選択している場合、エンコーダー／デコーダー周波数は連動して変わります。
- 「TSQ-NE」を選択している場合、エンコーダー／デコーダー周波数を個別に変更できます。

参 考:
通常、国内のアマチュア無線の運用スタイルでは、「TSQ-NE」に設定する必要はありません。

6.1.5 トーンスケルチの動作

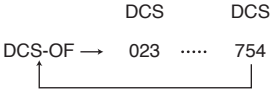
トーンスケルチ機能を使うと、設定している周波数のトーンが含まれた信号を受信したときのみスケルチが開きます。

6.2 DCS機能

6.2.1 DCSの設定

1.セットモード(☞44ページ)のメニュー14番を選択し、現在のDCS設定(初期設定は「DCS-OF」)を表示します。

2.ダイヤルを回すと、ディスプレイの表示が下記のように切り替わります。

DCS-OF → DCS 023 ····· DCS 754

3.MONIキー及びFUNCキー以外のキーを押して設定を終了します。
ディスプレイに **DCS** が表示されます。

6

6.2.2 DCSコードの変更

1.セットモード(☞44ページ)のメニュー14番を選択し、ダイヤルを回してDCSコードを選択します。(**DCS**点灯状態)

2.MONIキー及びFUNCキー以外のキーを押して設定を終了します
・DCSコードはエンコーダー／デコーダー同一コードが設定され、個別の設定はできません。

DCSコードは以下の104種類が選択できます。

023	025	026	031	032	036	043	047	051	053
054	065	071	072	073	074	114	115	116	122
125	131	132	134	143	145	152	155	156	162
165	172	174	205	212	223	225	226	243	244
245	246	251	252	255	261	263	265	266	271
274	306	311	315	325	331	332	343	346	351
356	364	365	371	411	412	413	423	431	432
445	446	452	454	455	462	464	465	466	503
506	516	523	526	532	546	565	606	612	624
627	631	632	654	662	664	703	712	723	731
732	734	743	754						

6.2.3 DCSの解除

DCSを解除するには、セットモードのメニュー14番で「DCS-OF」を選択します。

6.2.4 DCSの動作

受信したコードが設定したコードと一致したときにスケルチが開きます。

6

7. 特殊機能

7.1 ATT（アッテネーター）機能

近くに強力な信号があり、目的の信号がノイズを受けるなどして聞きにくい場合にこの機能を使います。この機能を動作させせると、トランシーバーの受信感度が下がります。

1.セットモード(☞44ページ)のメニュー17番を選択し、現在のATT設定(初期設定は「ATT-OF」)を表示します。

2.ダイヤルを回すと、ディスプレイの表示が下記のように切り替わります。

ATT-OF ⟶ ATT-1 ⟶ ATT-2

・ATT-1：受信信号の強度を10dB下げます。
・ATT-2：受信信号の強度を20dB下げます。

3.MONIキー及びFUNCキー以外のキーを押すと設定が終了し、ディスプレイに**ATT**が表示されます。
・ATT機能を解除するには、ATT設定の手順の中で「ATT-OF」を選択します。**ATT** 表示がディスプレイから消えます。

7.2 バッテリーリフレッシュ機能

オプションのニッケル水素バッテリーパックを繰り返して継ぎ足し充電していると、完全な充電が行われない「メモリー効果」と呼ばれる状態が起こる可能性があります。「メモリー効果」を防ぐためには、バッテリーパックの電力を完全に消費してから充電を完全に行うようにしてください。残りの電力をリフレッシュ(放電)するにはバッテリーリフレッシュ機能が役立ちます。まず本体を充電器やDCケーブルから取り外し、その後以下の手順で操作を行います。

1.キーロック状態に入ります。(「5.2キーロック機能」(☞34ページ))

2.FUNCキーを押して**F**点灯中に、

V/M/C MW キー、KL PO キー、SQL RPT キー、VOL NAME キーの順に、各キーをそれぞれ2回ずつ押します。ディスプレイに「DISCHG」が表示され、バッテリーリフレッシュが開始されます。

DISCHG

7

3.操作を解除するには一度電源を切り、再度電源を入れてからキーロックを解除します。

4.バッテリーのリフレッシュが終了すると本体の電源は自動的に切れます。

注 意

・標準付属のEBP-63や別売のEBP-64はリチウムイオンバッテリーパックで、メモリー効果は起きません。この機能を使ってリフレッシュする必要はありません。
・リフレッシュにかかる時間は、バッテリーパック残量に比例します。完全に充電したEBP-65では、リフレッシュにおよそ7時間かかります。
・本機能が動作中は、バックライトとキーが点灯しスピーカーからノイズが聞こえます。
・充電バッテリーパックを長期間保管する場合は、バッテリーリフレッシュを行い、その後充電を完全にしてから保管してください。また、3ヶ月に一度を目安にリフレッシュと満充電を行ってください。

7.3 レピーターアクセス機能

1.VFO/メモリー/コールチャンネルモードで、レピーターアクセス機能を適用したいチャンネルを選択します。

2.FUNCキーを押してF点灯中に SQL/RPT キーを押します。
レピーターアクセス機能が運用周波数に適用されます。

参 考:
レピーターアクセス機能でメモリーに登録済みの設定は、周波数に関係なく有効です。VFO/メモリー/コールチャンネルそれぞれのモードで登録された設定よりも、レピーターアクセス機能で登録された設定が優先されます。

7.4 発信機探索機能

特定の発信機の信号を受信し、その信号の強さで発信機までの距離を相対的に推測して探索する機能です。その発信機の信号を強く受信するほどビープ音が、短い間隔で鳴ります(Sメーターの大きさに応じた音が鳴ります)。フォックスハンティングなどにお使いください。

注 意

この機能はメモリーモードと連動します。この機能を使用するには、先にメモリーモードで発信機探索機能用メモリーチャンネルの登録をする必要があります。(「4.5.4 発信機探機能用メモチャンネルの登録」(☞27ページ))

1. V/M/C/MW キーを押してメモリーモードに切り替えます。
2.ダイヤルを回して登録済みの発信機探索機能用メモリーチャンネルを選択します。

発信機探索機能が設定されます(受信ランプは点灯しません)。
この機能を設定中は、受信音は聞こえません。
この機能が設定されると、自動的に探索音が鳴り始めます。ただし、トーンスケルチ及びDCS設定時は、周波数・コードが一致した場合のみ探索音が鳴ります。

参 考:
・発信機が近い場合や発信機の信号が強い場合は、ATT(アッテネーター)機能をONにしてお使いください(発信機探索機能動作中にセットモードに入ると、メニュー17番アッテネーター設定が常に最初に表示されます。「7.1 ATT(アッテネーター)機能」(☞41ページ))。
・キーロック状態でもATT(アッテネーター)機能の設定は可能です。ただし、その他のセットモードメニューの設定はできません。
・MONIキーを押すことで受信音を聞くことができます(このとき、受信ランプが点灯します)。発信機にマイクが装着されている場合、MONIキーを押すことで発信機側の周囲の音を聞くことができます。
・発信機探索機能は、通常のスケルチ機能とは無関係に動作します。
・市販の指向性アンテナを接続すると、方角を推測することができます。

8. セットモード

本機では、セットモードを使用して色々な機能を用途や好みに合わせて設定することができます。

8.1 セットモード一覧

以下は、セットモードで設定が可能な機能の一覧です。

メニュー番号	初期表示	機能名称
01	BS-ON	バッテリーセーブの設定／解除
02	TIMER	スキャンタイプ(タイマー／ビジー)の切替
03	BEP-ON	ビープ音の設定／解除
04	1750	トーンコール周波数の設定
05	SFT-OF	クロックシフトの設定
06	BCL-OF	ビジーチャンネルロックアウトの設定／解除
07	T-OFF	TOT(タイムアウトタイマー)時間の設定／解除
08	TP-OFF	TOT(タイムアウトタイマー)ペナルティ時間の設定／解除
09	STP-20	チャンネルステップの設定
10	SFD-OF	シフト方向の設定／解除
11	0.600	オフセット周波数の設定
12	TN-OFF	トーンスケルチの設定／解除
13	88.5	トーン周波数の設定
14	DCS-OF	DCSの設定／解除
15	APO-OF	APO(オートパワーオフ)の設定／解除
16	SKP-OF	スキップチャンネルの設定／解除
17	ATT-OF	アッテネーターの設定／解除
18	CHG-ON	バッテリー充電機能の設定／解除
19	BAT-NI	バッテリータイプの設定

8.2 セットモードの設定方法

1.FUNCキーを2秒間以上押します。
ディスプレイにセットモードのメニューが表示されます。
工場出荷時の状態では、ディスプレイに「BS-ON」が表示されます。

2.MONIキーかFUNCキーを押してメニューを選択します。
この状態では、モニター機能は動作しません。

3.ダイヤルを回して設定内容を変更します。

4.MONIキー及びFUNCキー以外のキーを押して設定を終了します。

・次回セットモードに入ると、前回操作を終了したセットメニューが表示されます。

8.3 セットモードで設定できる機能

8.3.1 メニュー1 バッテリーセーブの設定／解除

電池の無駄な消耗を防ぐため、キー操作をしない状態や信号を受信しない状態が5秒間以上続くと一定の比率で電源をON/OFFする機能です。

1.ディスプレイに「BS-ON」が表示されます。

2.ダイヤルを回し、バッテリーセーブのON/OFFを切り替えて設定します。

BS-ON → BS-OFF

・工場出荷時はONに設定されています。
・信号の受信や操作が行われると、バッテリーセーブ動作は一時的に停止されます。
・パケット通信を行うときにはバッテリーセーブ機能をOFFにしてください。
・バッテリーセーブ機能をOFFにしても、ディスプレイの表示に変化はありません。

8.3.2 メニュー2 スキャンタイプ(タイマー／ビジー)の切替

タイマースキャンとビジースキャンを切り替えます。(「5.1スキャン機能」(☞32ページ))

1.ディスプレイに「TIMER」が表示されます。

2.ダイヤルを回し、スキャンタイプの「TIMER/BUSY」を切り替えて設定します。

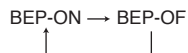
BS-ON → BS-OFF

8.3.3　メニュー3 ビープ音の設定／解除

警告ビープ音を含むすべてのビープ音のON/OFFを切り替えます。

1.ディスプレイに「BEP-ON」が表示されます。

2.ダイヤルを回し、ビープ音のON/OFFを切り替えて設定します。

BEP-ON → BEP-OF

8.3.4　メニュー4 トーンコール周波数の設定

1.ディスプレイに「1750」が表示されます。

2.ダイヤルを回し、トーンコール周波数を切り替えて選択します。

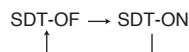
1750 → 2100 → 1000 → 1450 (単位: Hz)

8.3.5　メニュー5クロックシフトの設定

特定の周波数において常にかすかなノイズが聞こえる時は、クロックノイズの可能性があります。クロックノイズは本機の回路設計上さけられないもので消去することはできませんが、本機能ではノイズを他の周波数に移すことで、その周波数での受信が快適になります。

1.ディスプレイに「SFT-OF」が表示されます。

2.ダイヤルを回し、クロックシフトのON/OFFを切り替えて選択します。

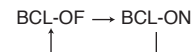
SDT-OF → SDT-ON

> **参 考:**
> 本機能はノイズブランカーとは異なる機能です。また、全てのノイズがクロックノイズによるものではありませんので、効果がない場合もありません。

8.3.6　メニュー6ビジーチャンネルロックアウトの設定／解除

PTTキーでの送信操作を制限する機能です。

1.ディスプレイに「BCL-OF」が表示されます。

2.ダイヤルを回し、ビジーチャンネルロックアウトのON/OFFを切り替えて選択します。

BCL-OF → BCL-ON

ビジーチャンネルロックアウトがONに設定されていると、次の①②③の場合のみ送信が可能になり、それ以外の条件では送信することができません。

送信が禁止されている状態でPTTキーを押すとアラーム音が鳴ります。

①信号が入感していない場合。(BUSYが消灯している状態)

②トーンスケルチ設定状態でトーンが一致してスケルチが開いた場合。

③DCS設定状態でコードが一致してスケルチが開いた場合。

8.3.7　メニュー7 TOT(タイムアウトタイマー)時間の設定／解除

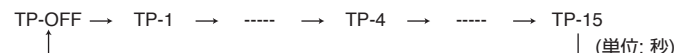
「5.6タイムアウトタイマー(TOT)」(☞36ページ)を参照ください。

8.3.8　メニュー８TOT(タイムアウトタイマー)ペナルティ時間の設定／解除

送信がTOT機能で強制的に終了した場合に、その後一定時間送信を禁止するTOTペナルティ時間を設定する機能です。

1.ディスプレイに「TP-OFF」が表示されます。

2.ダイヤルを回し、TOTペナルティ時間を設定します。

TP-OFF → TP-1 → ----- → TP-4 → ----- → TP-15 (単位: 秒)

TOTペナルティ時間中は送信が禁止されます。

・TOTペナルティ時間中にPTTキーを押すと警告音が鳴ります。

8.3.9　メニュー9 チャンネルステップの設定

「4.4.2チャンネルステップ設定」(☞24ページ)を参照ください。

8.3.10 メニュー10シフト方向の設定／解除

「4.4.3シフト方向とオフセット周波数の設定」(☞24ページ)を参照ください。

8.3.11 メニュー11オフセット周波数の設定

「4.4.3シフト方向とオフセット周波数の設定」(☞24ページ)を参照ください。

8.3.12 メニュー12トーンスケルチの設定／解除

「6.1.1トーンスケルチの設定」(☞37ページ)を参照ください。

8.3.13 メニュー13トーン周波数の設定

「6.1.2トーン周波数の設定」(☞37ページ)を参照ください。

8.3.14 メニュー14DCSの設定／解除

「6.2.1DCSの設定」(☞39ページ)を参照ください。

8.3.15 メニュー15APO(オートパワーオフ)の設定／解除

「5.5.1APOの設定」(☞35ページ)を参照ください。

8.3.16 メニュー16スキップチャンネルの設定／解除

「5.1.3スキップチャンネル設定」(☞33ページ)を参照ください。

8.3.17 メニュー17アッテネーターの設定／解除

「7.1 ATT(アッテネーター)機能」(☞41ページ)を参照ください。

8.3.18 メニュー18バッテリー充電機能の設定／解除

DC電源ジャックを使用し、外部電源やACアダプターを利用してオプションのニッケル水素バッテリーパックを充電することができます。「CHG-ON」を選択して本機能をONにします。
工場出荷時はONに設定されています。

1.ディスプレイに「CHG-ON」が表示されます。

2.ダイヤルを回し、充電機能のON/OFFを選択します。

3.本機能を正しくお使いいただくために、必ず「8.3.19バッテリータイプの設定」(☞49ページ)をお読みください。

OHG-ON → OHG-OF

参 考:

・乾電池の漏液や、乾電池および乾電池ケースの発熱や破裂の恐れがありますので、乾電池使用中は充電機能を必ずOFFにしてください。

・充電機能がONの間は、バッテリーパックを接続していない状態や電池残量が使用可能範囲を下回っている場合であっても、アダプターやDCケーブルなどのDC電源に本機を接続するだけで、本機の電源は自動的にONになります(電源スイッチの操作不要)。したがって、バッテリーパックをはずしたままにしていると本体背面の充電端子を誤ってショートさせる危険がありますので、取り扱いにはご注意ください。

8.3.19 メニュー19バッテリータイプの設定

正確な電池残量アイコンを表示し、DC電源ジャックを使用した充電を可能にするには、ニッケル水素バッテリーパック、リチウムイオンバッテリーパック、アルカリ乾電池の3種類から、適切な種類の電池タイプを選択します。

1.ディスプレイに「BAT-NI」が表示されます。

2.ダイヤルを回し、ニッケル水素バッテリーパック「BAT-NI」、リチウムイオンバッテリーパック「BAT-LI」、アルカリ乾電池「BAT-AL」の3種類から、適切なものを選択します。

BAT-NI (ニッケル水素) → BAT-LI (リチウムイオン) → BAT-AL (アルカリ乾電池)

参 考:

電池の種類の設定を適切に行ってください。「BAT-LI」または「BAT-AL」が選択されている場合は、前述した充電機能はお使いになれません。

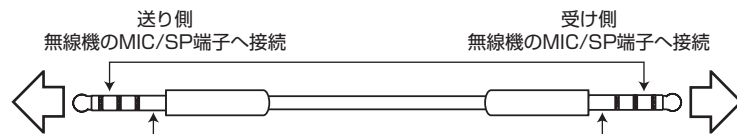
・下記の「セットモード一覧表」を切りとってご使用ください。

9. クローン機能・パケット通信

9.1 クローン機能

クローン機能とは、2台の無線機をケーブルで接続し、送り側となる無線機のメモリーデータおよび各種設定を受け側の無線機に転送してコピーする機能です。

9.1.1 接続方法

・ケーブルの接続は、必ず両機の電源をOFFにした状態で行ってください。
・図の様に、送り側と受け側の外部MIC/SP端子をオプションのクローンケーブル(EDS-11)で接続してから、両機の電源をONにします。

＊両機のMIC/SP端子にケーブルのプラグをしっかりとねじ込んでください。

9.1.2 データを送る側／受け取る側共通の操作

MONIキーを押しながらPTTキーを3回押します。ディスプレイに「CLONE」が表示され、両機がクローンモードになります。

9.1.3 データを送る側の操作

1.クローンモードでPTTキーを押します。ディスプレイに「SD　＊＊＊」が表示され、データの転送が開始されます。

2.転送が完了すると、「PASS」と表示されます。

3.本体の電源をOFFにします。別の無線機でもクローン操作を行う場合は、同様の手順を繰り返します。

ディスプレイの「SD　＊＊＊」、「COMERR」などの表示が動かなくなった場合は、データの転送は失敗です。次の「注意」をお読みになり、再度手順を繰り返してください。

注 意

データの転送に失敗した場合は、受け側の無線機の電源をOFFにして、オールリセット(☞54ページ)してから電源をONにし、その後再度手順を繰り返してください。そのまま受け側の無線機を使用すると誤作動する場合がありますので、データ転送を再度行わない場合であっても受け側の無線機はオールリセットしてください。

9.1.4 データを受け取る側の操作

1.送信側からデータが送られてくるとディスプレイに「LD　＊＊＊」が表示され、データの転送が開始されます。

2.転送が完了すると、「PASS」と表示されます。

3.クローン操作が終了したら、ⓞを押して本体の電源をOFFにし、ケーブルを抜きます。別の無線機でもクローン操作を行う場合は、同様の手順を繰り返します。

注 意

・データ転送中はケーブルを抜かないでください。ケーブルが抜けると、送信側のディスプレイに「COMERR」と表示され、データ転送が中断されます。
・クローン機能を使用してデータを転送すると、受け側のデータ内容はすべて送り側のデータ内容に置き換わります。

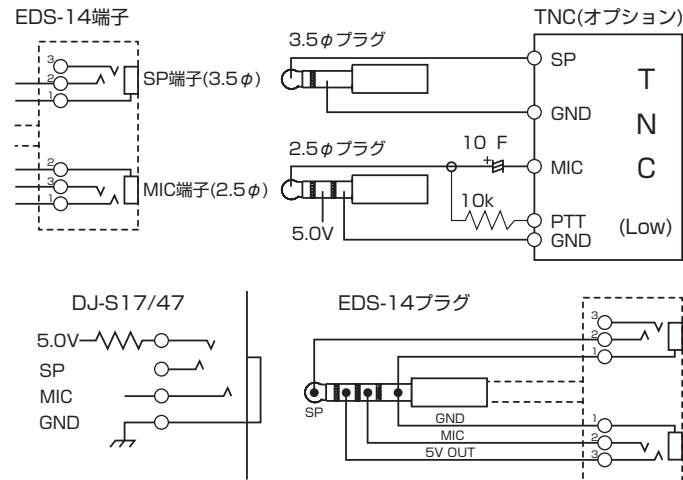
9.2 パケット通信

パケット通信とは、パソコンとTNC(オプション)を使用して送受信の操作をするデータ通信のひとつです。

9.2.1 パケット通信の接続

本機でパケット通信するときは、下図を参照し次のように接続してください。オプションのEDS-14 MIC/SPプラグ変換ケーブルを本機上部のMIC/SP端子に接続し、パケット通信用TNC(別売り付属装置：TerminalNode Controller)をEDS-14のSP端子(3.5φプラグ使用)、およびMIC端子(2.5φプラグ使用)に接続します。

・入力レベルの調節：本機にはマイクおよびスピーカーレベルを調節する機能はありません。TNC側でレベルを調節してください。

・出力レベルの調節：MIC/SP端子からの出力レベルは本体側の音声出力(VOL/NAMEキー)で調節してください。

* 内部の5Vラインから100Ωの抵抗を通して電圧が供給されます。

注 意

・TNCとパソコンなどとの接続方法は、TNCの取扱説明書にしたがってください。本機、TNC、パソコンとの距離が近すぎるとノイズを受けることがあります。
・パケット通信を行うときにはバッテリーセーブ機能をOFFにしてください。
・1200bps以下でご使用ください。

10. 保守・参考

10.1 故障とお考えになる前に

次のような症状は故障ではありませんので、よくお確かめになってください。処置をしても異常が続くときは、リセットをすることで症状が回復する場合があります。設定プログラム・CPU関連の問題は、リセットをすることで回復する場合が多いです。

症　状	原　因	処　置
電源を入れても、ディスプレイには何も表示されない。	バッテリーパックが接触不良をおこしている。	バッテリーパックの端子の汚れなどを取り除く。
	電池が消耗している。	充電をおこなう。
	電源スイッチを離すのが早すぎる。	電源スイッチを少し長めに押す。
スピーカーから音が出ない。 受信音がキャッチできない。	音量が低すぎる。	適切な音量に設定する。
	スケルチレベルが高すぎる。	適切なスケルチに設定する。
	トーンスケルチが働いている。	トーンスケルチを解除する。(☞P37)
	DCSが働いている。	DCSを解除する。(☞P39)
	PTTキーが押され、送信状態になっている。	PTTキーを離す。
周波数表示が異常になっている。	CPUが誤作動している。	リセットする。
	チャンネルネームが設定されている。	「5.4チャンネルネーム機能(☞P34)」を参照してください。
スキャンができない。	スケルチが開いている。	スケルチを雑音の消える値に設定する。
周波数、メモリーチャンネルNo.が切り替わらない。	キーロックが設定されている。	キーロックの設定を解除する。
	コールチャンネルモードになっている。	VFOモード、またはメモリーモードに切り替える。
キーによる操作ができない。	キーロックが設定されている。	キーロックの設定を解除する。(☞P34)
レピーターアクセス機能が使用できない。	レピーターを使うための設定が間違っている。	レピーターの設定を確認する。(☞P28)
送信ができない。 送信すると、表示が点滅したり消えたりする。	電池が消耗している。	充電をおこなう。 乾電池の時は交換する。
送信ができない。 送信しても応答が無い。	PTTキーが確実に押されていない。	PTTキーを押してTX/RXランプを赤く点灯させてから送信する。
	オフバンドになっている。(シフト設定時)	送信周波数の範囲内で送信する。
	周波数が違っている。	相手局の周波数と正しく合わせる。
受信中に表示が点滅したり消えたりする。	電池が消耗している。	充電をおこなう。

* DC電源ジャックキャップなどの防水パーツは消耗品であることに注意してください。メーカーによるIPX7等級の防水性能の保証期間は1年間です。扱説明書では解決できないことについてサポートが必要な場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。最寄りの販売店の検索には、Alinco.co.jpの「販売店のご案内」メニューをご利用ください。

10.2 リセット

10.2.1 パートリセット

メモリーの登録内容は保持し、それ以外の各種設定が全て工場出荷時の初期値に戻ります。
操作が分からなくなった、動作がおかしい、というときに使います。

1.FUNCキーを押しながら電源を入れます。

2.ディスプレイに全てのセグメントが表示されたら、キーを離します。2秒間ディスプレイから全てのセグメントが消えた後、再び表示されます。
初期状態のVFOモードになります。

10.2.2 オールリセット

メモリー及び各種設定が全て工場出荷時の初期値に戻ります。
意図的にメモリー内容や設定を全て初期化したいときだけに使います。

1.FUNCキーとV/M/C MWキーを同時に押しながら電源を入れます。

2.ディスプレイに全てのセグメントが表示されたら、キーを離します。2秒間ディスプレイから全てのセグメントが消えた後、再び表示されます。
初期状態のVFOモードになります。

工場出荷時の初期値

	DJ-S17	DJ-S47
VFO周波数	145.000MHz	433.000MHz
CALL周波数	145.000MHz	433.000MHz
メモリーチャンネル数	0〜199ch Blank	0〜199ch Blank
発信機探索機能用メモリーチャンネル	0〜9ch Blank	0〜9ch Blank
チャンネルステップ	20kHz	20kHz
シフト設定	None	None
オフセット周波数	0.6MHz	5MHz
トーンスケルチ設定	None	None
トーン周波数	88.5Hz	88.5Hz
DCS設定	None	None
DCSコード	023	023
送信出力	Low	Low
キーロック	off	off
タイムアウトタイマー	off	off
オートパワーオフ	off	off
音量設定	0	0
スケルチレベル設定	0	0
レピーターシフト	-	-
レピーターオフセット周波数	0.6MHz	5MHz
レピータートーン設定	88.5Hz	88.5Hz

10.3 オプション一覧

■ 専用オプション(スペア用を含む)

- EBP-63　リチウムイオン充電池パック(7.4V1100mA)
- EBP-64　リチウムイオン充電池パック(7.4V1600mA)
- EBP-65　ニッケル水素充電池パック(7.2V700mA)
- EBP-66　ニッケル水素充電池パック(7.2V2000mA)
- EDC-143J　スタンド型充電器セット(ニッケル水素専用)
- EDC-143R　連結用充電スタンド(ニッケル水素専用)
- EDC-144A　スタンド型急速充電器セット
- EDC-144R　連結用急速充電スタンド
- EDC-145　ACアダプター(ニッケル水素充電専用)
- EDH-34　乾電池ケース(防水では有りません)
- EMS-62　スピーカーマイク(防水プラグ)
- EME-32A　イヤホンマイク(ヘビーデューティ：防水プラグ)
- EDS-14　MIC/SPプラグ変換ケーブル
- ESC-41　ソフトケース
- EDS-11　クローンケーブル

■ 汎用オプション

- EDC-36　12V車用シガープラグ(フィルター付)
- EDC-37　DCケーブル

⚠ 注 意

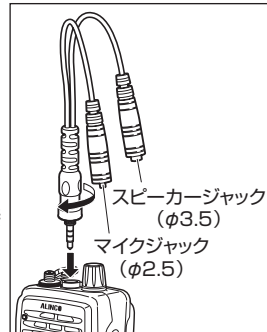
- 外部DCケーブル類を使用するときは、電源を入れる前に本機に接続してください。
- リチウムイオン/ニッケル水素充電池パック以外のオプション品はすべて防水加工されていません。防水プラグの付いたマイク類でも、マイクユニット部分は防水ではありません。防水機能のないオプション品を、湿気の多い環境で使用しないでください。
- 静電気が溜まりやすい場所や服装でイヤホンやイヤホンマイクを装着すると き、耳に静電気ショックを感じることがあります。ドアノブに触れて感じることがあるショックと同じで、漏電のような異常ではありません。

参 考:

- ベルトクリップ、ストラップ、アンテナもスペア部品としてお求め頂けます。販売店にご相談ください。
- EBP-63、64、65、66は、本体に正しい方法で接続された場合にのみIPX7等級の防水機能が働きます。

ここからは、別売オプション・アクセサリーの使用方法を説明します。オプションには説明書を添えていませんので、将来オプションをお使いになる時のためにも本書を必ず保管してください。

10.3.1 MIC/SP(マイク／スピーカー)プラグ変換ケーブル(EDS-14)

1. アンテナを外します。
2. 本機の電源を切ります。
3. プラグを時計方向(右)に回します。回転が止まったら、プラグを確実に取り付けたことを確認します。
4. MIC/SPケーブルをそれぞれのジャックに接続します。
5. アンテナを接続します。

注 意
・本機を上下逆さまに持ち、ケーブルを下にぶら下げた状態でプラグを取り付けるとケーブルが絡まりにくいのですが、手を滑らせて本機を落とす危険があります。落下による故障は保証の対象外となりますのでご注意ください。
・プラグを無理に締めつけるとプラグの故障の原因になります。ペンチのような道具を使って締めたり緩めたりすることは絶対におやめください。

参 考:
・EDS-14を使用すると「2.5mm+3.5mm2ピンタイプ」オプションが接続可能です。

注 意 バッテリーパックと充電器について
・本製品には性質が異なるリチウムイオンバッテリーパックと、ニッケル水素バッテリーパックがお使いになれます。性質が違うと充電方法が異なるため、仕様に合ったものをお使いいただく必要があります。バッテリーパックや充電器のスペアをお求めの際は、お使いのアクセサリーの品番をよくお確かめのうえ、ご注文ください。

10.3.2 バッテリーパック

バッテリーパックは出荷時には充分に充電されておりません。お買い上げ後にフル充電してからご使用ください。

■ 使用可能なバッテリーパック

EBP-63 リチウムイオンバッテリーパック (DC 7.4V 1100mAh)
EBP-64 リチウムイオンバッテリーパック (DC 7.4V 1600mAh)
EBP-65 ニッケル水素バッテリーパック (DC 7.2V 700mAh)
EBP-66 ニッケル水素バッテリーパック (DC 7.2V 2000mAh)

■ バッテリーパックの充電方法

バッテリーパックと充電器の適切な組み合わせについては、下図を参照してください。○がついている組み合わせが使用できます。(約ー時間)は、空のバッテリーパックをフルに充電するのに必要な時間を示します。

バッテリーパック / 充電器	リチウムイオンバッテリーパック		ニッケル水素バッテリーパック	
	EBP-63	EBP-64	EBP-65	EBP-66
EDC-143 スタンド型充電器セット			○ (約10時間)	○ (約14時間)
EDC-144 スタンド型急速充電器セット	○ (約2時間)	○ (約3時間)	○ (約1.5時間)	○ (約3.5時間)
EDC-145 ACアダプター			○ (約10時間)	○ (約30時間)

10.3.3 充電器の使用方法

注 意
◎お使いの充電器の品番をお確かめください。
・初めてお使いになる前に、ショート防止のために絶縁シートでネジ取り付け口を覆ってください。手順については、60ページを参照してください。
・本書の「警告」(☞4ページ)と、付属品の取扱説明書の安全上の注意をご使用の前にお読みください。
・バッテリーパックを充電スタンド(EDC143/144)で充電する時は、充電設定が[CHG-OF]でも充電できます。
・充電器は充電専用です。卓上スタンド代わりに使用しないでください。

以下の製品が付属品の中に入っていることを確認してください。

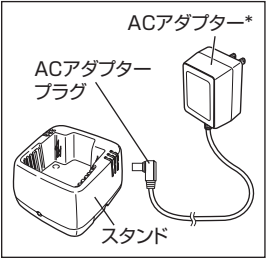
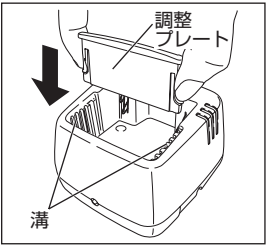
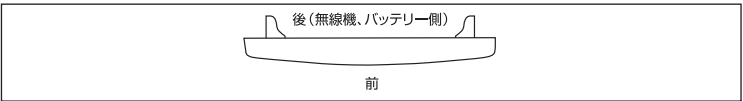
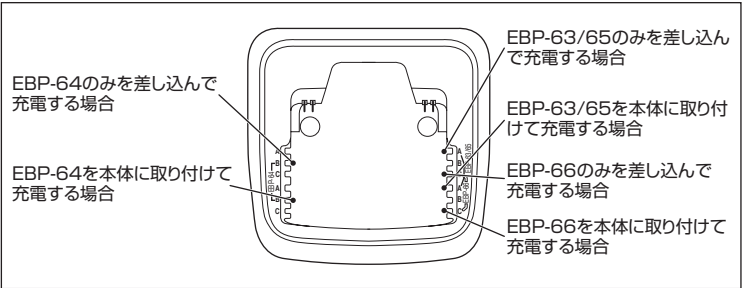
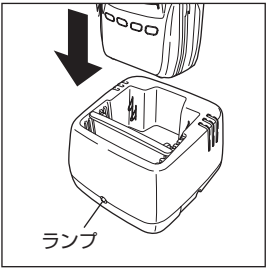
・EDC-144A: EDC-144スタンド、ACアダプター（AC 100V）、絶縁シート

・EDC-144R: EDC-144スタンド、接続ケーブル、絶縁シート、ネジ2本、接続ステー

・EDC-143J:　EDC-143スタンド、ACアダプター(AC 100V)、絶縁シート
・EDC-143R:　EDC-143スタンド、接続ケーブル、絶縁シート、ネジ2本、接続ステー

■ EDC-144A/EDC-143Jによる充電方法

1.ACアダプタープラグを、スタンド背面のDC-INジャックに接続します。
*ACアダプターの形は仕様によって異なる場合があります。

2.アダプターをコンセントに接続します。

3.調整プレートの両端を指で押さえたまま、バッテリーパックの大きさに合うスタンドの溝に調整プレートを取り付けます(左右の文字(A、B、C)が一致するように調整プレートを取り付けます)。プレートはスタンドの底までしっかりと押しこみます。
調整プレートの位置を変えることで、充電できるバッテリーの種類を変えることができます。

調整プレートの取り付け位置

4.図のようにスタンドにバッテリーパックを取り付けます。充電中は電源を切ります。(図は、バッテリーパックを本体に取り付けたまま充電する場合のものです。本体から取り外してバッテリーパックのみをスタンドに入れることもできます。)

スタンドのランプが赤色に点灯し、充電が始まります。

EDC-144の場合

5.充電が完了すると、ランプが消灯します。スタンドからバッテリーパックを取り外します。

EDC-143の場合

5.EBP-65は約10時間、EBP-66は約14時間で充電することができます。
充電時間の経過後、スタンドからバッテリーパックを取り外します。
スタンドにバッテリーパックが取り付けられている間は、
充電が完了しているかどうかにかかわらずランプは赤色に点灯したままです。

参 考:
・ニッケル水素バッテリーパックを繰り返して継ぎ足し充電していると、完全な充電が行われない「メモリー効果」と呼ばれる状態が起こる可能性があります。「メモリー効果」を防ぐためには、バッテリーパックの電力を完全に消費してから充電を完全に行うようにしてください。残りの電力をリフレッシュ(放電)するにはバッテリーリフレッシュ機能が役立ちます。
(「7.2 バッテリーリフレッシュ機能」(☞41ページ))

EDC-144の仕様

	EBP-63	EBP-64	EBP-65	EBP-66
入力電圧	DC 12.0V 700mA			
使用温度範囲	0℃～+40℃ (+32°F～+104°F)			
充電電流	600mA			
バッテリー容量	DC 7.4V 1100mAh	DC7.4V 1600mAh	DC 7.2V 700mAh	DC 7.2V 2000mAh
充電時間	約2時間	約3時間	約1.5時間	約3.5時間
アラーム機能	-		異常電圧検出（ランプ点滅）	

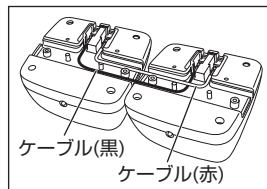
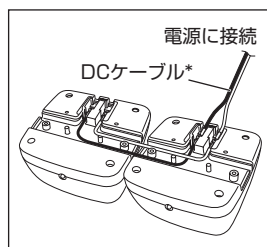
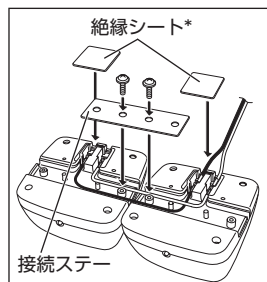
EDC-143の仕様

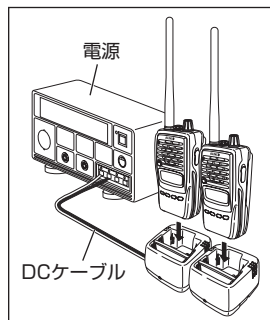
	EBP-65	EBP-66
入力電圧	DC 12.0V 150mA	
使用温度範囲	0℃～+40℃(+32F～104F)	
充電電流	70mA 140mA	
バッテリー容量	DC 7.2V 700mAh	DC 7.2V 2000mAh
充電時間	約10時間	約14時間

■ 追加スタンドを接続する（EDC-143R/144R）

EDC-143R/144Rを使用するには、それぞれ1A/5A以上のオプションの電源(IEC/EN 60950規格)が必要です。
DCケーブルは製品に含まれていませんので、AWG20相当1メートル(3フィート)以下のワイヤをお買い求めください。

1.電源の出力電圧がDC12.0Vであることを確認してください。

2.スタンドの端子同士を、付属の接続ケーブルで接続します。ケーブル(赤)は＋の端子に、ケーブル(黒)は－の端子に接続します。
同様の方法で、追加のスタンドを最高5個まで接続できます。

3.各スタンドの端子に、DCケーブルの末端を接続します。
*このDCケーブルは、本製品に含まれていません。

4.ショート防止のため、接続ステーと絶縁シートで各端子を覆います。

注 意
絶縁シートは、EDC-143/144シリーズの充電器に付属しています。ショート防止のため、充電器の底を上図のように絶縁シートで確実に覆ってください。

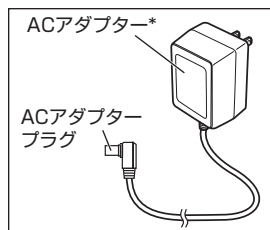
5.電源の出力端子に、DCケーブルの反対側の末端を接続します。
＋／－極を間違わないように気をつけてください。

■ DC電源ジャックによるバッテリーパックの充電方法

本機は、オプションのEDC-145ACアダプターやDC電源(DC 12V、1A以上：IEC/EN60950規格)を使用し、本体のDC電源ジャックを通して、オプションのEBP-65およびオプションのEBP-66ニッケル水素バッテリーパックを充電できます。

注 意
リチウムイオンバッテリーパックEBP-63/64はこの方法では充電できません。

1.「2.1.4 バッテリーパック」(☞13ページ)を参照して、バッテリーパックを取り付けます。

2.ACアダプタープラグを本機のDCジャックに接続し、充電器のアダプターをコンセントに差し込みます。
* 図のACアダプターは、同梱のACアダプターと形が異なる場合があります。

ACアダプター*
ACアダプタープラグ

3.本体の電源を入れ、以下の手順でバッテリータイプの設定およびバッテリー充電機能の設定を行います。
①「8.3.19 メニュー19 バッテリータイプの設定」(☞49ページ)を参照し、バッテリータイプを「BAT-NI」に設定します。
②「8.3.18 メニュー18 バッテリー充電機能の設定／解除」(☞48ページ)を参照し、「CHG-ON」に設定します。

4.設定が終わると、ディスプレイに▬が点滅します。アイコンの点滅を確認してから、本体の電源を切ります。EBP-65(EBP-66)の充電には、10(30)時間かかります。

10.4 申請書の書きかた

本機は技術基準適合証明（技適）を受けた無線機です。本機に貼ってある技術基準適合証明ラベルに技適証明番号が記入されています。本機に付属装置（TNCなど）や付加装置を付ける時は、非技術基準適合証明無線機になりますので保証認定を受けて申請してください。

技適証明番号
DJ-S17：002KN418
DJ-S47：002KN419

注 意

・本機の技適上の製品番号は、DJ-S17/DJ-S47です。
DJ-S17L/DJ-S47Lではありません。

10.4.1 技術基準適合証明で申請する場合

「無線局事項書及び工事設計書」裏面の「16工事設計書」に技術適合証明番号を記入してください。

記入例（DJ-S17の場合）

13 電波の型式並びに希望する周波数及び空中線電力	希望する周波数帯	電波の型式	空中線電力	希望する周波数帯	電波の型式	空中線電力
	□ 1.9M	A1A	W	□ 1200M	□3SA □4SA □3SF □4SF □	W
	□ 3.5M	□3HA □4HA □	W	□ 2400M	□3SA □4SA □3SF □4SF □	W
	□ 3.8M	□3HD □4HD □	W	□ 5600M	□3SA □4SA □3SF □4SF □	W
	□ 7M	□3HA □4HA □	W	□ 10.1G	□3SA □4SA □3SF □4SF □	W
	□ 10M	□2HC □	W	□ 10.4G	□3SA □4SA □3SF □4SF □	W
	□ 14M	□2HA □	W	□ 24G	□	W
	□ 18M	□3HA □	W	□ 47G	□	W
	□ 21M	□3HA □4HA □	W	□ 75G	□	W
	□ 24M	□3HA □4HA □	W	□ 77G	□	W
	□ 28M	□3VA □4VA □3VF □4VF □	W	□ 135G	□	W
	□ 50M	□3VA □4VA □3VF □4VF □ ※1	W	□		W
	□ 144M	□3VA □4VA □3VF □4VF □	W	□		W
	□ 430M	□3VA □4VA □3VF □4VF □	W	□4630kHz	A1A	W
14 変更する欄の番号		□3 □5 □8		□11	□13 □15 □16	

16 工事設計書	装置の区別	変更の種別	技術基準適合証明番号	発射可能な電波の型式及び周波数の範囲	変調方式	終段管 名称個数	終段管 電圧	定格出力(W)
	第 送信機	□取替 □増設 □撤去 □変更	※2 ※3				V	
	第 送信機	□取替 □増設 □撤去 □変更					V	
	第 送信機	□取替 □増設 □撤去 □変更					V	
	第 送信機	□取替 □増設 □撤去 □変更					V	
	第 送信機	□取替 □増設 □撤去 □変更					V	
	第 送信機	□取替 □増設 □撤去 □変更					V	
	第 送信機	□取替 □増設 □撤去 □変更					V	
	第 送信機	□取替 □増設 □撤去 □変更					V	
	第 送信機	□取替 □増設 □撤去 □変更					V	
	第 送信機	□取替 □増設 □撤去 □変更					V	
	送信空中線の型式	※4		周波数測定装置の有無	□有（誤差0.025%以内） □無			
	添付図面	□送信機系統図		その他の工事設計	□法第3章に規定する条件に合致する。			

※1 DJ-S17 ：144Mと4VFの項にチェックを入れ、空中線電力の欄には5Wと記入。
DJ-S47 ：430Mと4VFの項にチェックを入れ、空中線電力の欄には5Wと記入。

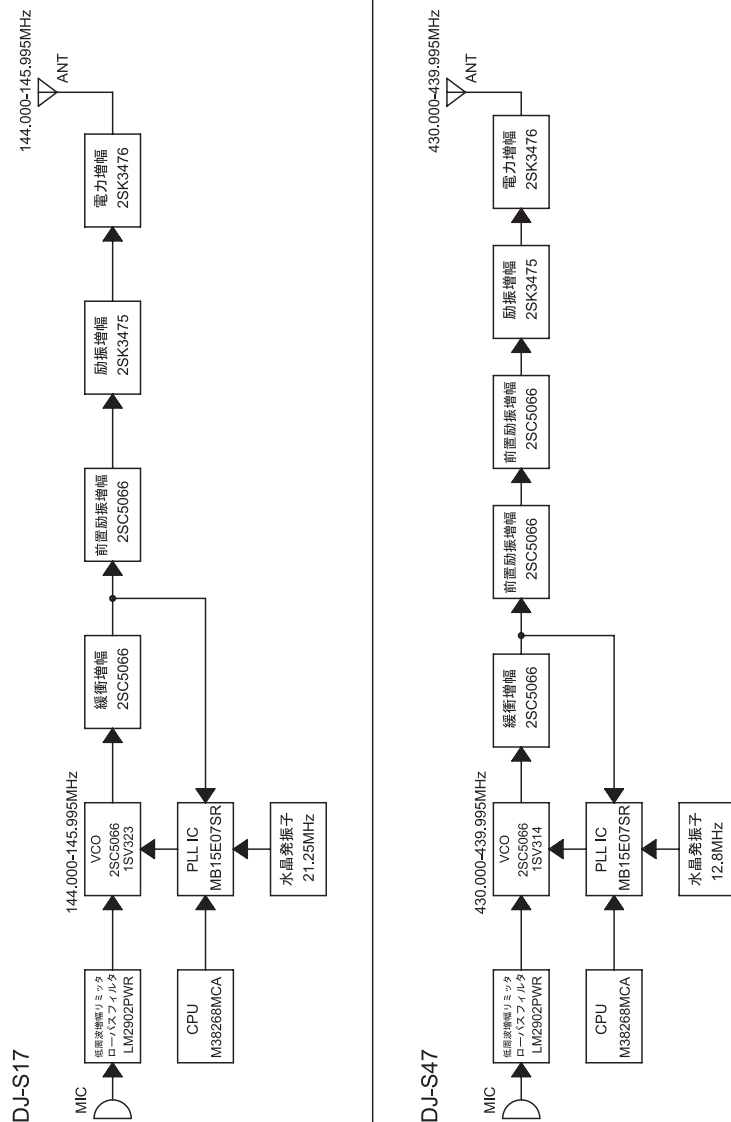
※2 技適証明ラベルの技術基準適合証明番号を記入します。

※3 無線局免許手続規則第15条の3第4項を適用する場合(技術基準適合証明を受けた無線機に、電波型式が追加されたり、空中線電力が変わる付加装置などをつけず使用する場合)は右の各欄の記載不要です。

※4 移動する局の場合は記載不要です。

10.4.2 送信系統図

DJ-S17

MIC
低周波増幅リミッタ ローパスフィルタ LM2902PWR
CPU M38268MCA
VCO 2SC5066 1SV323
144.000-145.995MHz
PLL IC MB15E07SR
水晶発振子 21.25MHz
緩衝増幅 2SC5066
前置励振増幅 2SC5066
励振増幅 2SK3475
電力増幅 2SK3476
ANT
144.000-145.995MHz

10.5 アフターサービスについて

■ 保証書

保証書は、所定事項(ご購入店名、ご購入日)への記入および記載内容をお確かめの上、大切に保管してください。

■ 保証期間

お買い上げの日より1年間です。

正常な使用状態で上記の期間中に万一の故障が生じた場合は、お手数ですが製品に保証書を添えて、お買い上げの販売店または当社サービス窓口へご相談ください。保証書の規定にしたがって修理いたします。

■ 保証期間が経過した場合

お買い上げの販売店または当社サービス窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料で修理いたします。

アフターサービスについてご不明な点は、お買い上げいただいた販売店または当社サービス窓口へご相談ください。

■ 製造終了製品に対する保守年限に関して

製造中止製品に関しては、下記の一定期間保守部品を常備しております。しかし、不測の事態により在庫が無くなる場合もあり、修理が行えないこともありますのでご了承願います。

※補修用部品の保証期間は、製造終了後5年です。

■ 保証対象外

製造番号が読めないと、保証修理をお断りする場合があります。保証期間内に印字が薄れてきたら、当社サービスセンターにご相談ください。

製造番号が読めなくなる位置に、ステッカーや飾り類を貼り付けないでください。修理の際に支障が有れば、サービスセンターで破棄します。

製造番号や技適などの番号ラベルは絶対に剥がしたり、貼り替えたりしないでください。

これらラベルに異常がある製品は、製品保証や修理をお断りする場合がございます。

製品純正、又は当社が認めたアクセサリー以外をご使用になって起きた不具合は、保証期間の有無を問わず有償修理となります。

弊社の製品保証には、取り付け取り外しに掛かる費用は含まれていません。

保証期間中に不具合が起こり、製品を取り外して再度取り付ける際に費用が発生しても、弊社ではその費用の負担は致しかねますので、予めご了承ください。

イヤホンマイクやＤＣジャックのゴムがわずかに緩んでいても水分や粉塵が無線機内部に入ることがあるため、それらによる故障は、保証の対象にならないことがあります。濡れたり汚れたりすることが考えられる場合は、ソフトケースをご利用いただくと水分や粉塵の浸入を軽減できます。

11.　定格

■ 一般定格〈DJ-S17〉

周波数	TX	144.000〜145.995MHz
	RX	136.000〜173.995MHz
電波形式		F3E(FM)
周波数ステップ		5、10、12.5、15、20、25、30kHzステップ
メモリーチャンネル		200チャンネル、10発信機探索機能チャンネル 1レピーター機能用メモリー、1コールチャンネル
アンテナインピーダンス		50Ω(不平衡)
周波数安定度		±5ppm
電源電圧		DC7.0〜16.0V (EXT DC-IN)
消費電流 DC13.8V	送信時(5W)	約1.4A
	受信時(500mW)	約250mA
	待受け時	約70mA
	BS時	約25mA
使用温度範囲	外部DC	-10℃〜+60℃
	バッテリーパック	-10℃〜+45℃
接地方式		マイナス接地
寸法		W58×H110×D34.1 mm (EBP-63装着時)
重量		約270g(アンテナ、バッテリーパックEBP-63装着時)
CTCSS		エンコーダー/デコーダー内蔵(CTCSSトーン39種類)
DCS		エンコーダー/デコーダー内蔵(DCSコード104種類)

■ 送信部

送信出力	HI (DC13.8V時)	約5W
	HI (バッテリーパック時)	約5W
	LOW	0.8W
変調方式		リアクタンス変調
不要輻射強度		-60dB以下
最大周波数偏移		±5kHz以内
マイクインピーダンス		2kΩ

■ 受信部

受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン
受信感度	-14dBu(0.2uV)以下
中間周波数	21.7MHz(1st) / 450kHz (2nd)
選択度	(-6dB)12kHz以上 / (-60dB) 26kHz以下
低周波出力	500mW(MAX)400mW以上(8Ω、10%歪み)

■ 一般定格〈DJ-S17〉

周波数	TX	430.000〜439.995MHz
	RX	420.000〜469.995MHz
電波形式		F3E(FM)
周波数ステップ		5、10、12.5、15、20、25、30kHzステップ
メモリーチャンネル		200チャンネル、10発信機探索機能チャンネル 1レピーター機能用メモリー、1コールチャンネル
アンテナインピーダンス		50Ω(不平衡)
周波数安定度		±2.5ppm
電源電圧		DC7.0〜16.0V (EXT DC-IN)
消費電流 DC13.8V	送信時(5W)	約1.7A
	受信時(500mW)	約250mA
	待受け時	約80mA
	BS時	約27mA
使用温度範囲	外部DC	-10℃〜+60℃
	バッテリーパック	-10℃〜+45℃
接地方式		マイナス接地
寸法		W58×H110×D34.1 mm (EBP-63装着時)
重量		約270g(アンテナ、バッテリーパックEBP-63装着時)
CTCSS		エンコーダー/デコーダー内蔵(CTCSSトーン39種類)
DCS		エンコーダー/デコーダー内蔵(DCSコード104種類)

■ 送信部

送信出力	HI (DC13.8V時)	約5W
	HI (バッテリーパック時)	約4.5W
	LOW	0.8W
変調方式		リアクタンス変調
不要輻射強度		-60dB以下
最大周波数偏移		±5kHz以内
マイクインピーダンス		2kΩ

■ 受信部

受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン
受信感度	-12dBu(0.25uV)以下
中間周波数	38.85MHz(1st) / 450kHz (2nd)
選択度	(-6dB)12kHz以上 / (-60dB) 26kHz以下
低周波出力	500mW(MAX)400mW以上(8Ω、10%歪み)

12.　付録

12.1 使用できる文字の一覧

	A		T		Г		0
	B		U		Д		1
	C		V		Ё		2
	D		W		Ж		3
	E		X		З		4
	F		Y		И		5
	G		Z		Й		6
	H		space		Л		7
	I		*		П		8
	J		#		У		9
	K		+		Ф		
	L		-		Ц		
	M		/		Ш		
	N		\		Ъ		
	O		=		Ы		
	P		<		Ь		
	Q		>		Э		
	R		$		Ю		
	S		_		Я		

■電波法上のご注意

電波法第59条は「何人も法律に別段の定めがある場合を除くほか、特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない。」とし、第109条で「無線局の取扱中に係る無線通信の秘密を漏らし、又は窃用した者は、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。」と罰則規定を設けています。さらに第109条の2で「暗号(秘話)通信を受信した者が、その暗号通信の秘密を漏らし又は窃用する目的で、その内容を復元(秘話解除)した時は、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。」と定めていますので、放送以外の無線通信を傍受される場合は電波法違反とならないよう十分にご注意ください。

本機はアマチュア無線機です。使用するにはアマチュア無線技士資格とアマチュア無線局免許が必要です。

■電波を発射する前に

ハムバンド付近では、多くの業務無線局が運用されています。これらの無線局の近くでの電波発信には通信の混信などにお気をつけください。

アマチュア無線局が電波法令を遵守していても、思わぬ電波障害が起こることがあります。移動運用の際には、十分なご配慮をお願いいたします。

無線機を安定化電源で運用中、電源に近づけた状態で送信すると、回り込みが発生し電源や無線機が通常と異なる動作をすることがあります。これは電源内部のトランスなどに無線機の電波が入り込み、電磁誘導が発生しているため起きる現象です。物理的に避けられない現象ですので、製品の異常ではありません。このような場合は、電源から十分(30cm程度)離しての運用をお試しください。

■お手入れのしかた

適切な状態で本機を使用するために、定期的に本体の掃除をお勧めします。

・掃除をする前に、必ず本体の電源を切り、電源コードを取り外してください。

・コンピューターやデジタルビデオカメラなどの精密機器用ウエットティッシュ、静電気防止ブラシ、ゴム製ブロワーなどの掃除用品は、無線機や付属品の表面の掃除にも適しています。湿式のものは、余分な水分を十分絞り落としてからお使いください。いくら専用の成分とはいえ、故障の原因になることができます。

・シンナー、ベンシン、アルコール、接点復活剤、スプレー式ブロアーなどの溶剤やスプレーは製品を傷つけますので、絶対に使用しないでください。家電製品用と無線機等の精密機器用では溶剤が異なることがあり、誤って使用されますと保証が無効となります。

・電源のACコンセント周辺にほこりがたまらないようにこまめに掃除してください。無線機に限らず、コンセント近くにほこりがたまっているとトラッキング現象と呼ばれるスパーク による発火が起こり、火災の原因となることがあります。

■本機は厳重な管理の下に生産および出荷されますが、万一ご不明な点やお気付きの点がありましたら、
　できるだけ早くお買い上げいただいた販売店または弊社営業所へご連絡ください。
■乱丁・落丁などございましたら、無償で交換いたします。誤字、脱字の責はご容赦ください。
■説明用イラストは、実際とは字体や形状などが異なったり一部省略されている場合があります。
■「アルインコ」および、「ALINCO」のロゴは、アルインコ株式会社（日本）の商標として、アメリカ合衆国、
　EU 諸国、ロシア、中国などの国で登録されています。
■本書の内容は事前の通知なしに変更になることがあります。

ALINCO アルインコ株式会社　電子事業部

東京営業所　〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目3番4号　日本橋プラザビル 14階　☎03-3278-5888
大阪営業所　〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4丁目4番9号　淀屋橋ダイビル13階　☎06-7636-2361
福岡営業所　〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1丁目3番6号　第3博多偕成ビル7階　☎092-473-8034

アフターサービスに関するお問い合わせは
お買い上げの販売店または、フリーダイアル 0120-464-007
全国どこからでも無料で、サービス窓口につながります。
受付時間／10:00〜17:00月曜〜金曜(祝祭日及び12:00〜13:00は除きます)
ホームページ　http://www.alinco.co.jp/ 「電子事業」をご覧ください。

PS0544C
FNEH-NJ